



紫陽花 (矢田寺境内)

そよ風に揺れる藤の花  
 長く伸びた花房が波打つ  
 妖艶 華麗  
 甘い香りがあたりに漂う  
 挿頭にした乙女の  
 香りに包まれた笑顔  
 紫陽花 額の花  
 七色に変化する美しい花  
 手鞠のような華やかな花  
 淡い空の色に染まっている  
 雨に打たれてつやつやしい葉  
 雨の滴をころがせて遊んでいる  
 雨の歌に聞き入っている  
 陽の光を浴びてキラリと輝く  
 やさしいやさしい初夏の微笑み



額紫陽花 (矢田寺)

Photo essay

# 夏はまゆ

題字 中田 閣 石  
 撮影 由井 収  
 文 松 永 恵



砂ずりの藤 (春日大社)



季節の



野霧吹く



昼顔



霧たつ日 (桐)

実景

撮影 武市通治

初夏



夏も近づく



ネムの木





雲海 (後原町成場より古野連山)

角谷 信昭



大吾藏雲岩から富士

松浦 隆康



セツ釜滝 (大杉谷)

三浦 弘幸







克

納会

矢野 晃

12月23日、今年度の山行きの納会をいつもの仲間3人、六甲山で行った。  
 飯沼川からロッカゲ・デーンを経て、雨ヶ峰・東布たふく山から一軒茶屋への谷間の水場を選び、すき焼きパーティーをした。天気もよく、12月にしては暖かく谷間から見上げる気候は抜群のように青い。  
 肉も野菜もおつまみも、そしてお酒もたっぷり持って登り、戸頭の山行までは出来なくらい充分に時間をとり、今年一年お世話になった六甲やいろんな山の思い出話を話された。  
 今年の山行きのスタートは、2月の樹木の金剛山であった。私にとって、今年というようには、山行きの再スタートは、と

言うほうが正しい。  
 高校まで山口県で育ち、父親が大の山好きだったので、いつも親父に連れられてもらっていた。昔は近くの中国地方の山々、夏休みになると九州、四国にまで足を延ばした。阿蘇・高千穂峰・石鐘山・笹ヶ峰・瓶ヶ森・剣山、今思い出してもあの時の感懐は忘れられない。そんな感懐を20数年ぶりに思い出させてくれたのは昨年秋、あるグループのハイキングでのTさんとの出会いだった。  
 そのハイキングはどちらかというところワイワイ食事するのがメインだったのだが、きっちりした登山装備で参加されたTさんに私が「よく山に登られるのですか」と尋ねたのが始まりだったと思う。Tさんは控えめだが、近くのいろいろな山の話、特に六甲の魅力や、冬の金剛山の樹木の素晴らしい話など話してくれた。

「今度ぜひ一度一緒にさせて下さい」  
 「1月末か2月の初めに金剛山の樹木を見に行きませんか」とアツと誘う間に話がまとまり、2月5日の再会を約束してその日は別れた。  
 こうして20数年ぶりの、今年度の山行きの納会が始まった。  
 金剛山の樹木は想像以上のもので、見事なまでに豪華な純白のドレスで私達を迎えてくれた。久しぶりの山の匂いは私を暖かく包んでくれ、御座に私は山の魅力に再びとり憑かれてしまった。  
 六甲を自分の裏庭のように愛し、熟知しているTさんが、この数年挑戦し続けているのが「六甲山縦走56」だ。私の今年の目標を12月23日のそれに置いて、56の分割トレッキングを開始した。その頃、同じ目標を持つ、もう一人の仲間Yさんと出会った。そうして3人の



克

随想 (山のエッセイ)

苦しい夏のトレッキングが始まった。  
 六甲山縦走は一山登ったら必ず下らなければならぬ。それも半端ではない。そしてまた次の山へ登る。全山の登りを合計すると3000以上の山に匹敵する。そのうえ56という距離への恐怖感がある。いくらトレーニングを積んでもこの恐怖感最後まで残る。桐尾山の400階段、薊水山、天狗道から摩耶山、東六甲と経路は数知れずあり、また人それぞれに難しく感じる場所はある。  
 朝5時、須磨浦公園スタート。まだ完全夜間の中、必死に前の人の足を見ながら一気に旗振山へ、後ろを振り返る余裕もない。鉄鍋山・桐尾山の旗の400階段もヘッドランプの明かりの下、難なく登りきった。横尾山を過ぎたあたりでうっすらと夜が明けた。朝焼けが海に反射して港一両タークビルク、あ

まりの美しさに足が止まる。  
 高取山・鶴越を経て次の難所薊水山へ。あの夏の暑い日、頂上まであと10分残してダウンした薊水も無事通過した。  
 摩耶山には12時10分に着いた。もうコースの半分以上は来ている。昼食後歩き始めたが気温の急激な低下で膝が冷えて足が思うように出ない。だがこれからは3人の足の見せ所、即座とスビードへの挑戦だ。准登山・一軒茶屋、しかし分岐に入った所で、道を阻まれ思うように先に進めない。ちょうど大平山を過ぎたあたりで前がいた。トップを行くTさんの右手が上がる。ラストパートの合図だ。今までは幾度となくトレッキングを積んだコース、3人の足並みは完全に揃っている。歩く限界、時速3kmの世界への突入だ。旗尾寺の鳥居がやっと見えた。後ひと息、宝塚の夜明けがやけにきれいだ。街が眩しい。宝塚到着17

時40分、12時間38分、記念すべき56のゴールの瞬間。  
 長い一日が終わった。  
 Yさんの紹介で折ハイへ入会したのは9月の半ばだった。  
 朽木・白岩屋、比良サカガから小女湯ヶ池と比良山系に2回参加、いずれも静かで、それでいて厳しい比良の良さを十二分に味わうことが出来た。そしてなにより多くの人と友達になれた。  
 来年は新ハイで鈴鹿方面に挑戦したい。大山にも行きたい。石鐘山にもう一度登りたい。六甲山縦走は来年も挑戦するだろうし、やっぱり夏休みには高尾山に行きたい……。  
 いろんな人との出会いを楽しみに、行きたい山のストックをいっぱい持って来年しよう。  
 一軒茶屋から鳥居道を下って、石馬のお湯の中で私達3人の今年の納会が終わった。







## 伝説の山と北陸の名峰1等点

# 人形山と金剛堂山

山本 久雄

越中

手をつないだ姉妹の予言で有名な人形山

(地元の人にはひとがたやまとも)、すぐ隣の三ヶ辻山、越中のお殿様も登ったという金剛堂山、この北陸の二名山をご存知ならば相当の山好きに違いない。以前から気になっていた山だが登るチャンスがなかった。昨年5月中旬に金剛堂山に登り、遂かに人形山を見て来年こそはと心に決めた。

今年の5月1日(3日)にこの人形山(へい724m)、三ヶ辻山(1764m)、金剛堂山(1638m)へ3人で目指すこととなった。

合掌荘の民家で有名な五箇山の奥に暮らす人形山と三ヶ辻山に登った人がまわりにはいなく、話も聞けず、アプローチが

どのような状況なのかよく判らない。多少の不安はあったが、富山県城端町を自指して一路南極の落ちる北陸道をひた走る。海抜ジャンクションで東海北陸道へ乗り継ぎ、3時間少々で城端町へ着いた。

城端町は矯正に区別された気持ちのよい町並みが続き、JR城端駅は給本にあるような古い駅で、思わず車を止めて見入ってしまった。五箇山へは駅前右折するのだが、今夜の食料を仕入れるため少し遠回りして商店街へ立ち寄った。降り止まぬ雨の中、人通りもなくひっそりと静まり返って濡れをぼる町に佇むと、なぜかほっとする。本当に静かだ。

五箇山までは二重線の立派な道路で、長

人形山山頂にて(後方は三ヶ辻山)



早速、所有者を訪ねる。小屋の名称は中根山荘、素泊り(寝具付き)2500円とのこと。通常は山荘前まで車で登れるが、

今は途中から残雪があり、林道を1時間程度歩かなければならないと言う。テントは持っていたが、そこまで担ぎ上げるのも大変だし、寝具付きなのでシニラフも不要となる。日帰りの荷物と食料で一泊できる。誘惑に負けて山荘を利用することにした。それにしても軟弱になったもんだ。

残雪の現れたあたりに車を置き、夕暮れせまる林道をいっこうに雨足の衰えない中、3人でばくばく歩く。今流行の広域林道にする改修工事中で、残雪のため車が通れないこともあって道は結構荒れている。途中、湖か下の船瀬川をのぞくと、水流は白く一筋に流れ、ゴルジョは美しい。

口もどっぴり暮れた頃、ようやく山荘に到着。発電機を回し、夜食をとり、寝具をひきずり出して休む。

翌朝、動物の気配に飛び起きてびっくり、ネズミの子供が我が尻にひびいたりくっついて寝ている。

「昨夜は寒かったからなあ」

「おまえとこで寝かしたんや」

「身に覚えがないで」

「と、おあだこうだと3人で大笑いさせてもらった。

空は、相変わらずどんよりしていて、標高1000mから上はガスの中。雨でなく

よいかつた、と歇めあって登山開始。しばらくは開拓地の中を行くが、すぐに立派な道標があり登山道となる。ここからは残雪を踏むことになる。杉林の中、尾根をはずさぬよう道筋を上を自指して行けばよいので気分的には楽である。杉林を出ると尾根がはっきりしてきて、ようやくマルツンボリ山を見下ろすようになる。谷を隔てて人形山が頂上にガスをまとって過か遠くに響いている。雨が心配だ。的場平と呼

ばれるあたりまで垣根な尾根の登りが続く。そこを過ぎるとしばらく急登となり、ぼっかりと宮屋敷の台地に飛び出し、展望が一

気に開けた。

空も機嫌が良くなったのか雲が消え、雪空のぞきはじめた。古い木の鳥居がぼつんと立っている。やれやれと三言いたいところだが、目指す人形山はまだまだ遠い。正面には三ヶ辻山、右手には人形山三角点カラモン峠が怪鳥の羽のような尾根を広げている。双眼鏡で見ると、三ヶ辻山の取りつきの急斜面の残雪がズタズタに切れ、大きなクレバス状になっている。かなり危険な状態と思われるので、あっさり次回にすることにしよう。人形山を自指す。

三ヶ辻山と人形山の間の吊り尾根までは、宮屋敷からいったん見送り坂を下り、最低鞍部からハシゴ坂を急登しなければならぬ。最低鞍部付近も雪の状況はあまりよくなく、ルートを選んで通過する。ハシゴ坂を登りきると目の前に三ヶ辻山があり、状態の悪そうな残雪がはっきりと見てとれた。ここから人形山へは、おおらかな尾根となり春巻の中うきうき歩いた、と言いたいところだが、風が弱く暑いことこのうえない。Tシャツ一枚で汗だくになって歩く。

13時30分山頂到着。遅い昼食をとる。展望はすこぶる良いはずだが、春霞がかかっている。目の前に三ヶ辻山、遠くに金剛堂







富屋敷から人形山を望む

山、眼下に高野山、その左上に楳ヶ山、ここまでで階段。そして直下には、上翠の集落がぼんやりとまどろんでいるかのようである。あの集落から姉妹の古形が見られるのは、もう少し遅い時期になるだろう。雲はすっかりなくなり、空も山も、ものみなすべてが姿を堪能しているようだ。我々もお相伴にあずかり、山頂で1時間ものんびりする。

おおらかな山頂だがここから下っている谷は、やさしい山名からは想像し難いほど急峻だ。なかでも南西側の大戸倉谷は壮絶と聞いているが、遍行記録を目にしたことはない。

名残り惜しい山頂をあとに富屋敷へと向かう。富屋敷で三ヶ辻山に別れを告げ、グリースード、シリセードと滑りまくり、1時

間で登山口に着いた。車を置いた所までは1時間少々か。林道歩きとなる。下梨のはずれて道を間違え、今夜の宿泊地、利賀村へ向かう。この山は、山頂は改修され立派なトンネルで、すぐに利賀村へと入れた。左折して約20分で行くと、これまた立派なトンネルで、すぐに上戸瀬到着。再び右折して金剛堂山登山口にある遊歩道へ一夜を過ごす。

翌日は結構な登山日和となる。金剛堂山も一部の急登部分を除いて登山口からベッタリの残雪道となったので、昨年5月中旬の雪のない状態での記録を紹介しよう。

金剛堂山は、あの国際演劇祭「利賀フェスティバル」が毎年開催される高山黒利賀村の奥に、ひそやかに、しかし堂々と鎮座している。知る人ぞ知る北陸の名峰である。標高は金剛堂山本峰△1637・9m(1等本峰)、奥金剛は1650m程度である。これほどの山がなぜあまり人に知られていないのか。近づくに白山や北アルプス等があるので、都合から来る人達の目に留まらないうのだから。それが幸いして実に奥ゆかしい静けさを保っている。

5月中旬頃までは曇雲が多いので、ハイ

キング気分が出かけるならそれ以降のほうがよいと思われる。登山口には大きな駐車場と立派な水場があり、テントも張れる。小さいながらコンクリート造りの遊歩小屋もある。

登山道はここから竜口谷と日馬谷を分ける尾根に登る。以前からあった竜口谷からの登山道ではない。しばらくは小さな流れに沿って行くが、ここから先には水はないので、しっかり補給しておく。1021mピークまではつらい登りが続く。地図で見ると、このあたりに竜口谷からの道が登ってきているはずだが尾根にでもなったのか見当たらない。

ここから道はぐっと楽になる。カムシバが多く今が花盛り、マンサクも咲いて新緑の中まことに美しい。

登山道は広大なブナ林を抜け、1346mピークを越え、目の前に金剛堂山が聳え、あたりは高山らしくなってくる。いったん鞍部に下り再び登りとなる。空は雲に覆われているが、強いにも雲底が高いので見晴らしは良い。すく、険に白木峰、反対側少し離れて三ヶ辻山、その隣に悲しい伝説の人形山が残雪をそここにつけている。いろいろな花が咲き誇っている。ウグイス



金剛堂山付近地図

の由に導かれて春爛漫の山道を行く。のどかだ。ゆるゆるとした時が体を洗い流してくれる。心の中まできれいになるようだ。

10時ちょうど、低い雲に覆われた山頂に飛び出す。小さな遊歩道の社は、いつからここにあるのだろうか。傍らにザックを置き、奥金剛へ向かう。10分程度である。登山道はさらに南へと続いていく。おさえがたい猿轡をぐっとこらえて、社のある本峰へ戻る。この間は遊歩道でゼンソウがあらこちに既落となって咲いている。

白山が霞ヶ所を伴って白くゆったりと鎮座し、目を侮すれば奥金剛の麓、狼ヶ峯、山頂が姿を見せている。もう少し天気が

良ければ北アルプスも見えるはずだ。白山と御岳に挟まれ奥美濃、飛騨の山々が霞の中、遙か彼方にうすくまわっている。これほどの展望に恵まれた山は、そうぞらにはあるまい。あれらの頂に立てるのは何日のことだろうか。

金剛堂山の存在を知ったのは、故郷井野市氏の本であった。その紀行文を読む、妙に心ひかれ、それからずっと登山を願って来た。さきさきまごころを胸に今頂上にいる。こんな気持ちになれたのも嬉しい。地元の人達にも愛されているらしく、仰々しい立て看板はなく、道はしっかりと手入れされグミひとつない。

11時45分南線通過に伴い、気温が急に上昇するのが分かった。12時2分山頂をあとにした。

2時間で駐車場に到着。帰路、2等三角点の高峰に寄り道し、目の前の堂々とした金剛堂山に別れを告げる。高峰林道終点から歩いて5分という楽な登山だ。小牧温泉で疲れをいやし、一路京部へ。

関四からはちょっと遠いが、きっと思い出に残る登山になると思っています。チャンスを作らせてお出かけ下さい。人形山と三ヶ辻山

は地元の有志が登山道を整備され、無雪期には良いルートだと聞いた。金剛堂山は昨年に続き登頂したが、越中八尾からの登山道が出来ていたり、山頂に大きな方位盤が置かれていたり、と少しずつ変わっているようだ。

☆コースタイム☆

- 京部(車5〜6時間) 城端町⇨五箇山⇨湯谷林道(1時間) 中根山荘(泊)
- 中根山荘(15分) 登山口(2時間) 的場平(1時間) 富屋敷(50分) 三ヶ辻山との分岐(20分) 人形山頂上(40分) 富屋敷(シリセード1時間) 登山口(1時間) 楳ヶ山道(車約1時間) 下梨⇨利賀村⇨下戸瀬⇨金剛堂山登山口(泊)
- 登山口(2時間50分) 金剛堂山△(10分) 奥金剛(10分) 金剛堂山△(2時間) 登山口(車5〜6時間) 京部
- △地形図▽5万リ下梨・白木峰
- 中根山荘問い合わせ先
- 〒939-190

富山県奥能登郡平井上型724  
ヤマト・金西観光サービス山崎(富山) 電話 TEL0763(66)23320



# 玉体杉から西塔

前中 毅

## 京都北山

玉体杉にて



叡登山などのハイキングは、スポーツ的な要素と、小さな旅の楽しみとを合わせ持つのだが、そんな魅力に惹かれて京都周辺の山々を気ままに歩き回っている。なかでも比叡山は、そんな山旅の醍醐味が味わえる山である。この山の大半は延暦寺の領地であることから、三百目以上は昔からの禁猟地だ。加えて樹木の伐採も厳しく規制されてきたので、大都市の裏山のような山域にもかかわらず豊かな自然が残っている。そして山内には、1200年にも及ぶ栄枯の歴史を秘めた延暦寺があり、堂塔伽藍が点在している。

西塔(横川)を二か所ずつ訪れるお堂巡り山行も二回目で、今日は西塔を中心と歩く。敦賀街道(国道37号線)の八瀬長谷山の登山口バス停から北山(長谷出)坂を登る。入り口に由緒ある大きな石陣が何基も立っているように、この道はその昔、京都から西塔や横川へ参詣するために拓かれた峠道だったことが分かる。

歩き始めてしばらく行くと、麓者が目立つ辺りから長谷出の里が見下ろせるが、かなりの急登で一気にも高度を稼いできた。べんてつ蘭音の分岐で、早くも山水を引いた。お助け水、の世話になる。右は黒谷越の道で曹徳寺に達するのだが、今日は左へ登る。こちらは横川越えの云三大師道

で、まず峠道の峠へ向かう。5分ほど登ると谷に沿った道になるが、すぐに谷を離れて支尾根のジグザグ道を登る。道には道標はほとんど無いが、落ち葉が厚く積もって目字型に掘れ込んだ地形から、古道の感触が伝わってくる。山中の新緑は、体が緑に染まるほどに濃密で、所々に隙の大樹や巨大な風化木が佇んでいて、幻想的な雰囲気である。都世が出てきて傾斜はいくらか緩

くなったが、植林地に入るとまた急になった。

横川越えの峠(692m)では、いつものように、せり合ひ地蔵が迎えてくれた。峠の四つ辻を乗り越すのが横川への道で、左へ登る奥比叡縦道は「越」とつけたいほどの急登で、約15分で横高山(767m)へ達する。私は峠道を南へ行く。

快風な尾根歩きになり、すぐに大杉に出会う。これが玉体杉で、このポイントには眺望が良く、東に琵琶湖や比良が、西には京都の市街地や愛宕山などが望める。

昼食後も南進する。左手にドライブウェイが近づいてきた所に小さな道標があり、それに従って僅かの密生した小道を下る。やがてジグザグ道になり、谷に下って曹徳寺の裏へ出た。庫裏の横から表へ回ると法然(1133~1212)の座像があり、中庭を隔て、彼がその中で書物や経典を熟読したと伝わる報恩蔵がある。曹徳寺で20年以上も修行した法然は、後に浄土宗を開いた(1175)。

「別荘の谷」と呼ばれる西塔の黒谷に位置する曹徳寺は、天台宗でありながら浄土宗の聖地でもあり、現在は浄土宗が管理している。住職の派遣など、同寺の維持運

管は浄土宗総本山知恩院が指すする。

山門を出て整然とした石段を上がり、小島たちの輪唱に迎えられる北谷の龍虎堂(重文)へ向かう。ゆったりした道を懐やかに登ると、朗読色の若葉が覆う山際に碧瑠璃が建っていた。信長の焼き討ちにも山内で唯一無傷で残ったこの古堂は、唐風の軒反りなどを持つ一級の文化遺産だ。

龍口信長による叡山焼き討ちは、信長と対戦中の浅井・朝倉連合軍の残兵が叡山に陣取ったことに端を発した。信長は叡山の使者に、「せめて中立の立場を」とまで譲歩したのだが、叡山はそれを蹴った。元治二年(1571)9月12日、「普殺し」焼きつくせ」との命令を受けた信長の配下は、忠実かつ貪りにそれを実行した。開山以来、800年間にわたって構築されてきた延暦寺は、わずか2日間で全滅した。その後400年余を経た今日まで、全盛期の姿に戻ることはなかった。叡山ではこのジュノサイド(奥前庭)の悲劇を、元

龜の法鏡と語り伝える。

叡山や本願寺、そして高野聖などに狂信的なジュノサイドを繰り返した信長のことを、『街道をゆく16 叡山の道道一』(司馬遼太郎著)によれば、「世界史的にみて

もっとも早い時期に出た積極的無神論者である」と評述している。

ドライブウェイを横断して左手の香炉が丘へ上がる。左には遠吠きの八重桜に囲まれた相輪塚(重文)があり、右の杉木立には大石仏が屹立する。叡山で最古にして最大で、祈に見る名作だと言われているこの石仏だが、延暦寺が新築した「比叡山」には、「鎌倉初期の弥勒の石仏」と紹介されている。この見解を順守するかのようには、私の読んだほとんどの関連書は同様の記述だった。ところが、「京の石仏」(佐野精一著)だけは、「藤原期の釈迦如来」と、自信を持って断定している。著者による多角的な分析と、整然たる理論の展開は、まったくの素人である私に対しても十分な説得力をもつ。

Uターンするように下ってくると、深緑の中に釈迦堂(重文)が見えてきた。兩谷にどっかと構える釈迦堂は、豊臣秀吉が三井寺(園城寺)の金堂を移築して復興したもので、西塔の本堂にふさわしく、気品と荘厳のある大伽藍だ。

正面の石段を上がる。中ほどの右奥に恵光寺があり、登りきった所には二内室がある。二内室とは、双童子のような法華堂(重





二内室

224)。天台座主に四座も就いた慈因は、西行や兼好も慕った超一流の歌人でもあり、小倉百人一首にも秀歌が残る。  
叡山独自の千日回廊行は、山上、山麓を一日に30から84、実に千三百間も回廊するもので、その異計距離は地球を一一周するのと同じほぼ4万に達する。行の半ばで絶命した行者もあつたと聞くが、盛入りのという組み合わせ行をも含めて、生きて還

れる保護のない道だ。  
明土室の下まで登り返して左の近道に入  
り、弁天堂へ向かう。弁天堂からは山道に  
なるが、この道は明治、大正の頃には賑々  
た京都からの参道で、現在は東海自然歩道  
だ。鳥居がボツと立つ眺望の良いピーク  
に着いたが、ここからの道が実にいい。約  
2kmほどのほとんど平坦なブロードコー  
スが桜並木で続く。  
桜並木は、この参道が栄えた頃に茶屋の  
あつた小仏場で、今ではベンチとトイレの  
ある東海自然歩道の路傍休憩所になってい  
る。  
桜並木から2分で分岐。東海自然歩道を  
左へ目送り、非行者用トンネルから京都へ  
入る。林道状の谷合沿いの道を下ると、と  
30分ほどで鳥居のある大塚まで来た。この  
ポイントを「大鳥居」と呼ぶ。道はこ  
の先三つに枝れて、鳥居をくぐれば地蔵谷  
から北白川へ、そして鳥居の右脇の道は一  
粟寺谷から豊後院へと通じているが、私は  
直角に右下へ急坂を下る。アップダウンを  
繰り返して、三つ目の谷が水炊場だ。汗を  
拭いて顔や手を洗い、小休する。  
水炊場から西へ30分ほどで水炊(地名)  
に上がる。ここは豊後院の中ほどで、本線

とクロスする北の道を赤山禅院へ向かう。  
延暦寺の管領所である赤山禅院は、赤山  
大明神とも呼ばれ和仏公祀の地である。赤  
山禅院と呼ばれるようになったのは、明治  
初期に神仏分離令が発せられた頃で、仏教  
寺院としての存在を明確にするための窮余  
の策だった。  
林道を谷合沿いに下りてくると橋がある。  
橋を渡ってしばらくすると舗装路に出合う。  
このあたりが松林で、今では豊原駅な車道  
になってしまったが、往時は、岩倉や八潮  
などから、修学院近辺に点在する寺社への  
参道だった。左手の右側に沿って地蔵を左  
へ入ると、ゴール地の「赤山さん」の山門  
は目の前だ。  
近くの家の裏庭の空には近頃では珍しく  
なつた翅のほりが5月の薫風を受けて悠然  
と泳いでいた。(平成6年5月5日歩く)  
△コースタイム▽  
登山口バス停(1時間15分) 玉体杉(30分)  
賢徳寺(40分) 釈迦堂(40分) ケーブル延  
暦寺(30分) 弁天堂(45分) 桜並木(50分)  
水炊(40分) 赤山禅院(20分) 釈迦修学院  
△地形図▽昭文社「14京都北山」



文と常行堂(重文)とが渡り絶下で納  
ばれて見られるもので、その形状を天神神を流  
したつづらに見立てて、弁慶の担架、な  
どともいう。前方の樹林の中に見えてきた  
椿堂も見逃さないおきだ。小倉ながらも法  
く、流としていて聖徳太子にゆかりとの伝  
説がある。  
広い参道は、西塔を組んで東塔の西谷に  
入って浄土院の白壁が見えてきた。最後の  
剛所の浄土院は、千日回廊行と並ぶ昔行  
といわれる十二行龍山行の舞台でもあ  
る。  
念仏堂(階級道)を登ると山上院に着いた。山

玉座を建立した山珍(智証大師・五代天台  
座主)を祀るとき、宗史に清涼として数々、  
山を二分した抗争について述べなければな  
らない。浅学の私だが誤解を恐れずに推理  
をすれば、抗争の原因の一つは、最澄と  
空海(弘法大師・善願の祖)の論争が尾  
を引いたものと思われる。最澄の弟子山  
(慈覚大師・三代天台座主)と、空海の還  
縁にあたる円珍は、どちらからも叡山の歴史上、  
稱代の英雄で甲乙つけがたく、二人の力は  
天台宗を日本一の教団に育てた。ところが  
両者の宗教上の出生の違いが、弟子達の対  
立を生んだ。そして円珍の死後、両派の後

輩派は思かにも僧兵を強化し合って、血な  
まぐさい百年戦争に突入した。比叡山の  
悲劇といわれる分岐の結果は、円珍派が  
当時3000人いたと言われる叡山僧のう  
ち約1000人を引き連れて三井寺へ去り  
(894)、天台寺陣宗の旗揚げをした。  
ドライブウェイに架かる歩道橋を渡って  
左へ。お慶水の先から右へ入り、回廊をく  
ぐる。法華院(持世の南から坂を下る。  
観光客の行き交う荒馬場を鋭角に右折す  
と、あとは道なりに坂本ケープルの延暦寺  
駅に着いた。  
石鳥居をくぐって、板谷、とも呼ば  
れる東塔の無常谷へ向かう。参道を上り、  
ほど下ると分岐があり、左が明王堂、右が  
弁天堂への道だ。今日のコースは弁天堂を  
経て京都へ下る予定だが、その前に無常寺  
谷の諸堂を訪れる。  
明王堂から無常寺、そして法華院へと下  
る。さらに宝珠院、大慶院と続き、中国風  
の山門を持つ玉照院は、ひっそりと谷底  
にあった。この谷の主堂である明王堂は千  
日回廊行の拠点になり、法華院は政所で、  
この行を指揮する総帥が居る。相堂(11  
73~1262)は大乗院住職の慈円のも  
とで出家して、後に浄土真宗を開いた(1



連載

日本霊山紀行 20

霊山

825

浅野孝一

霊山は阿武隈山地の北に位置する山である。標高は低い。金山岩から成っていて、東北の妙義山とも言われている。

南北朝時代、南朝の武將北畠顯家は、後醍醐天皇の皇子義良親王を奉じてこの山に陣を置き北朝と戦ったとの伝承がある。

『日本山草志』には「瀧山(別称不立山)磐城國相馬・伊貝、二郡岩代國伊達郡二跡ル、相馬郡玉野村大字玉野ヨリ三十町(伊達郡瀧山)大字上石ヨリ一里二十町カ」ニシテ其山頂に達す、標高三千八百六十四尺」とある。

登山口は国道115号線の行合道バス停である。JR相馬駅から相馬行き「JRバス」に乗るが、本数は少ない。又本来の登山

口まで行合道から車道を約40分歩かねばならない。それ故若くはタクシー代がかかるが、登山口まで相馬駅からタクシーを利用するか、自家用車を利用する。

私の場合は自宅を早朝6時に出発して、霊山麓のある登山口に10時55分に着いた。登山道は三分ほどで主峰の岩の上立つ。右手の山の斜面には、樹林帯の間に岩山が点々とあり、山頂一帯が見えてくる。さらに登ってゆくと道は二分する、左へ進むと天狗の相撲場という平らな岩の上になる。ここを過ぎると登山道は山深い様相となり、懸崖入り口に達する。分岐を左へ下ってゆくと子不知、親不知の岩場、オーバー

と右手にたどるものがある。北へ山稜をたどると日枝神社跡、霊山寺跡に至るが、私達は峰路のことを考えて右の東物見岩に向かった。登山道は広々としていて、樹林の中をいったん下ってかき登ってゆく。

山道は、右へ下ってゆき五百羅漢岩、弘法岩の突き出た岩から樹林帯を下ると日暮の岩がある。その上立つて付近の風景を見ていると目の昏れるものを感じてしまうということである。ここから急坂を下ってゆくと広い登山道に出る、左へ下って霊山麓のある登山口に突く。

この一帯は霊山県立自然公園に属している。かつて山頂には山頂御座があった。現在その位置等については発掘調査がされている。その歴史は、平安前期の貞観元年



子不知・親不知の岩場



ハンクした岩壁の下の登山道を歩く。その岩場の突端が懸崖で、左に落ちると崖下。右手に太平洋方面の展望が広がる。霊山の中腹までは花崗岩、山頂近くは火山角礫岩、片麻岩、安山岩、玄武岩などの岩層からなっている。これ等の地層は霊山層と呼ばれる。懸崖境から雑木の間を登った所は国司館跡の広場で、先ほど分かれた登山道と二峰になる。このすぐ上は広場となっていて、そこは登山城跡である。広い城跡の一角に観音堂と小祠、石碑などがある。『源流二郡村誌』は「日暮岩相馬、巖然削ルカ如ク、巖立奇の如シ、……山頂日枝神社皮と観音堂アリ……」と記している。共に小さなものであるが、お堂の前には多くの積み石があった。展望はない。城跡から三分する登山道は北上するもの

Advertisement for ADD SPORTS featuring a cartoon character and text: 'G.W.はすぐそば!', '知識と良品をお届けする店', 'ADD SPORTS', '営業時間10:30~19:30 定休日 毎週火曜日', '〒670 相馬市東辻井2-6-37 TEL0792-97-8098 FAX0792-97-5332'.



大阪支店をオープンしました。ご愛顧下さい。

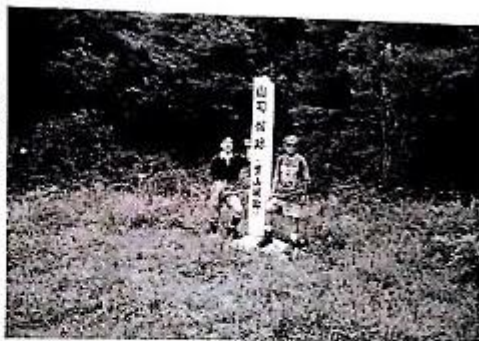
# 冒険クラブの日本百名山と世界の山

★他にもたくさんコースあります。資料をご請求下さい。(無料)▶お一人でも、お五組にご参加下さい。

日帰りから本格的な縦走コースまで『冒険クラブ』の夏山のはじまりです。

★全コースツアーリーダーが同行いたします。  
★コースによっては現地から同行する場合がございます。

|  |   |  |
|--|---|--|
| <b>高山植物の宝庫 五台山 エーデルワイスハイキング</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より | <b>大雪山縦走と愛山溪</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より   | <b>お花畑の白馬岳</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より        |
| <b>高山植物の宝庫 大姑娘山登頂</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より           | <b>利尻岳と礼文岳</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より   | <b>奥穂高岳から前穂高岳へ縦走</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より  |
| <b>スイスアルプス フラワーハイキング</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より        | <b>剣岳と立山三山</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より   | <b>日本第2の高峰とお花畑の北岳</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より |
| <b>カナダ・アトワゴン山ハイキング</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より          | <b>霧白岳と斜里岳と燧燗岳</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より   | <b>甲斐駒ヶ岳と仙丈岳</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より      |
| <b>アラスカ未自然ハイキング ラットトゥッフ山登頂</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より  | <b>アポイ岳と後方羊蹄山</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より  | <b>白峰三山縦走</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より         |
| <b>東南アジア最高峰 キナバル山ゆとり登頂</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より      | <b>尾瀬・至仏山と燧ヶ岳</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より  | <b>鳳凰三山縦走</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より         |
| <b>台湾最高峰 玉山登頂</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より               | <b>尾瀬ハイキング</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より   | <b>宮之浦岳と縄文杉</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より       |
| <b>早池峰山・岩手山 秋田駒ヶ岳・八幡平</b><br>7月12日(水)～14日(金) (3泊4日)<br>2泊3日コースも可<br>料金 25,000円<br>定員 10名<br>申込 7月12日～11日 6日間 18,000円より       | <b>お問い合わせ・お申し込み先</b><br><b>アミューストラベル 株</b><br>〒541 大阪市中央区本町4-5-3<br>本町三井ビル2号館8F<br>TEL 06-265-3303 FAX 06-265-3306<br>日本旅行業協会 運輸大臣登録一般旅行業 登録番号 第151号<br>主幹 ショッピング・アーツビル10F 運輸大臣登録一般旅行業 登録番号 第151号 |  |



回廊館跡(雲山城跡)

(859) 慈覚大師円仁により開創された「南岳山王院雲山寺」であった。山頂に近い国司池を中心に二十余りの院坊跡があり、現在山頂付近にその遺跡を見ることが出来る。比較山ともいわれ、東北山岳仏教の一大中心地として栄えた。

下って建武年間、北畠顕家等は義良親王を奉じ登山城で北朝と戦ったが、貞和三年(1347)陥落し、百余宇の雲山寺は一

字も残さず炎上した。

雲山の北麓に雲山寺がある、これは好余曲折ののち、寛永年間に日光の天海大僧正により江戸東叡山寛永寺の末寺として復興された。そして信達三十三観音霊場の第二十九番札所となっている。

又近くに雲山神社がある。祭神は北畠親房、顕信、顯家、守親の四柱である。日枝神社の境内には、白濁権土松平定信が文化十四年(1817)に建立させた雲山碑がある。雲山神社の宝物として北畠親房著『神皇正統記』や『隠原抄』がある。北畠親房は南北朝動乱時、南朝の重鎮であった。著書は天皇家の歴史、政治形態等が論述されているが、その記述は常に立場を超えた公正さがあると高く評価されている。

(平成5年7月24日歩く)

▲参考タイム▼  
 雲山庵10・55↑天狗の相撲場11・45↑12・00↑国司館跡・昼食12・25↑12・00↑三角点13・20↑日暮岩13・45↑13・55↑雲山庵

△地形図▼ 2万5千 雲山

## 白馬から花だより 4～6月を歩く(ミニ山行)

深い雪から目覚めた白馬の春。知られざる、素晴らしい自然に出会えます。  
 4～5月は鉾川渓流、落着温泉、千国古道・地蔵峠、鬼無世・奥花畑、岩岳・蕎麦遊歩道、雨降山・鎌池。  
 5月3～5日は埴の道祭りです。大いに歩きましょう。  
 6月は親海温泉、樹池自然園、扇吹大池、雨降山、白馬岳周辺。  
 春～初夏はワラビ、コゴミをはじめ珍しい山菜採りが楽しめます。夜は花のスライドをお見せします。

お問い合わせ 長野県北安曇郡白馬村おちくら  
 北原まで(白馬の花を語る会)  
 TEL・FAX 0261-72-2151



## 野外塾

● ハイキング考

村田 智 俊

私達が「ハイキング」という言葉から受けるイメージは、よく正にする「山登り」や「登山」とは多少違うような気がします。どちらかといえば「山歩き」「ピクニック」のイメージに近いと考えます。

日本では高い山が少なく、また地形的にも樹林に囲まれたたかな山が多く、クライミングや沢登りの技術がなくても山頂に立つことができます。多くの山にはハイキングコースと呼ばれる、りっぱに整備された歩きやすい登山道があり、容易に登ることが出来ます。沢道を歩いても滝に出合えば高巻き道がしっかりついていて、コースも岩場やガレをさけるようについています。道標もあり、休憩するベンチや小屋まで揃っています。山頂は広場になっていて何々山と書かれたプレートもあります。所によっては方位盤まで用意されて、地図を見なくても展望を楽しむことができます。又これらのハイキングコースを紹介した登山地図やガイドブックも多数発行されていて、その情報や知識は前もって知ることが出来ます。

「ハイキング」とは、このような登山コースを利用して山野を歩き、自然を親しみ、さわやかな汗を流すというもので、足履の

しつかりした人なら誰でも親しめるアウト

ドアの原点ともいえるスポーツです。新ハイキングの名称もそのような意味に理解して頂くとありがたいのですが……、厳しい状況下の登山登山、沢登り、沢歩き、又低い山でもクライミング要素の強いものは例へば案内事から除外されています。

山野でなくとも、京都や奈良に代表されるように、関西の各都市の周辺には古い時代の遺跡や山跡などが多数あり、それに通じる古い道も残っています。お寺めぐりや遺跡めぐりもハイキングの一種だと考えられます。

いろいろな要素のあるフィールドが手軽にありますので、個人の好みでハイキングを楽しんでみましょう。今回は、このハイキングでの楽しみについて考えてみましょう。

### ① ウォッチング

自然観察と呼ばれます。山野を歩き回り、自然の中で何かを発見し、観察したり記録したりすることです。鳥(バードウォッチング)は代表的なものです。ほかにも動物・樹木・草花・鉱石・地質なども観察の対象になるでしょう。小型の観察ノート

(フィールドノート)を持参して、これらの目的物を見つけた日時・場所・天候・名前・大きさ・色・形状などを書き留めておくといひでしょう。

記録の方法としては、写真(カメラウォッチング)・スケッチ・録音(サウンドウォッチング)といふこともできます。野鳥の鳴き声などはサウンドウォッチングが楽しさを倍加させてくれます。又野草や花などは手軽にできるスケッチがよいでしょう。

帰宅後にはハイキングノートのコースタイムや山行記録といっしょにこの観察ノートも整理して記録に残しておけば楽しい思い出になります。

### ② 森林浴

日本の山は、森や林でおわれ、その中を歩くことは、知らないうちに自然に森林浴の恩恵を受けていることになります。森の中には、空気中にフィトンチッドといわれる揮発性の成分が揮散しており、それが肺の中に入ると自律神経に快い刺激を与え、精神を安定させたり、活性化させるなどの効果があるようです。また、フィトンチッドの成分の中で、テルペン類の含有量が多いのは、針葉樹林などで、トウヒなどの森を

歩くとさわやかな気分になるといわれています。このようにいろいろな森に入らなくてもストレスの解消になります。また葉っぱから出る香りの樹木の香りも気分を落ち着かせてくれます。

森の中では、太陽エネルギーの8パーセント以下が、樹木に吸収され、地表線の量も少なく、日やけを防ぎながら適度な日光浴を楽しむことができます。

### ③ テント泊

日本でも過半数が定着し、ハイキングも日帰りから1泊2日で楽しめるようになりました。キャンピングカーにキャンプ用品を積んで週末を楽しむ家族が増加しています。これらはハイキングというより、キャンプ自体を楽しむものです。

ハイキングでのキャンプは、山中にテントを張って一夜を過ごすというロマンがあります。最近では用器類も軽量化が進み、大きなザックでなくとも、手帳に運ぶことができます。食料も工夫され、簡単な料理法で、おいしく食べられるものが出回っています。コンロや食器もコンパクトで便利なものがあります。

5月から10月中旬頃までなら、山中のテ

ント泊でも寒さは感じられません。友人・グループなどでランブや焚き火を囲んで一夜の語りにはよい思い出になります。

山中に1泊すれば、ハイキングの行動範囲も広がり、遠方の山にも出かけることができます。

### ④ 集中登山

あらかじめ目的の場所と時刻を決めておいて、各パーティーごとにいろいろなコースに分かれて登山する方法です。この場合は集中できる場所と、それをめざすコースが多様にあることが必要条件となります。尾根道や沢道などのコースを決めて、個人の力量にあったコースを選んで登ることが出来ます。いつもお互いに連絡がとれるように無線機や携帯電話などを使用しましょう。山頂で汗ながが出た喜びは大きいでしょう。

これと反対に、同じ基点を出発して、目的の場所を決めて、いろいろなコースから登る放射状登山もあります。

その他、縦走大会、オリエンテーリング、カモシカ山行、やぶ漕ぎ、ピークハンティングなど、ハイキングの楽しみはたくさんあります。



## 奥美濃の一級の山

# 高丸山

松田敏男

## 奥美濃

奥美濃最高峰の熊野山(黒嶺)もあるだろうが、一般的にや、その隣の飯倉は別格として、根尾川より西の山域では最も高い山が高丸山(1300m・3.0)である。伊吹山と金巻岳もその山域に含まれているが、われわれ関西の者には、それら二山は滋賀県側から登る関西の山という感が強い。奥美濃の代表的な山として、冠山、三周ヶ岳、蕎麦山などが挙げられるが、いずれも1200m台である。ひとり高丸山だけが1300m台を越えている。その差はわずかであるが、京都に住む者には、親しみ深い比良も鈴鹿も1200m台までであるから、1300mという数字の響きには、ちょっととした思い入れを感じてしまう

わけである。中部・中国地方との境を除けば、1300mという標高は、台高と大峰にしかない貴重な数字である。高丸山という名称は、室利毘「山の本」9号の慶次次盛一氏の説明による。その本には、「一般に言われている熊野山という山は高丸山が正しい名称で、三周ヶ岳に続く稜線から東へ高丸山を派生しているジャンクションピークを熊野山と呼ぶ」と書いている。また高丸山は俗に馬車山とも呼ばれているそうである。

1991年の11月に三周ヶ岳に登った折、その登山道より高丸山の大きい姿を常時望み、登りたい気持ちを強く持った。その山行は夜叉ヶ池畔での1泊2日だったので、



2日目ほうまくいけば高丸山への往復を考えていたのだが、ジャンクションピークから見る高丸山への長い道のりとブッシュのつまり具合を見て、とても日の短かいその季節では往復して帰れないと、あきらめた次第であった。

その後坂内村側から登ってみた。1992年10月である。朝早く京都を出発したが、日帰りではとうてい無理であった。ピーク

100mほどまで行くのがやっとで、紅葉した樹林の中より、山頂を懐疑の眼差しでながめるよりほかなかった。

同じコースを前後発で林道終点にテントを張って登るといふ案も考えていたが、まだ知らない夜叉登頂の道を歩きたい気持ち強く持っていたこと、山中にゆっくりテントを張って高丸山をめざすほうが、深い山に分り入った喜びは大きいと思うことなどの理由により、夜叉ヶ池畔にテントを張って、尾根伝いに歩ける残雪期に照壁を抜けた。雪の深さや積まり具合など、3月

下旬がいいのか4月なのか、それとも……と日曜の予想を立てるのはむずかしい。スキー場だよりも新聞に載らなくなった季節だから、近くの山に登るとか、友人に付近の山の情報を知ることとして判断しなくてはならない。

昨年のゴールデンウィークの、私の休みは3日間しかなく、所収する山の会の北アルプス山行には参加できないことが早くから分かっていった。同じ条件の岩井さんと、どこの山に行こうかと相談しているうちに、大雪の年だったので、高丸山の積雪にはま

だ雪が残っているように思えるから行ってみましよう、ということになった。

北陸道木之本インターで国道に降りる。横山岳を見ながら金吾原から八草峠への道を上る。この道は標高も700mを超え、谷は深く雄大な景色が広がる山岳道路だ。土倉峠への林道を左に見て、川上で左に曲がる。池ノ又谷に通じる坂内川に沿った道だ。この谷から見る両側の山は自然林が多く、狭い線がまさに「山菜」の基盤をつくっている。

池ノ又谷林道の終点よりまだ少し手前なのに駐車している車が見え始め、数台ははらに詰まっている。車から降りた登山者が、すぐ先の林道を雪がふみでいると教えてくれた。ここに交るまではそんな残雪など全く予想もつかない暖かそうな蒸気の斜面しか目にいらなかったもので、非常に驚いた。いちばん下手まで戻って車を駐めた。

問題の箇所はすぐだった。斜面から落ちてきた雪が降り上がり、道をふさいでいる。そのあたりだけ雪が大量に残っているまはらと異様だ。それを過ぎれば、乾いた暖かな林道がまた奥へと続いていた。

林道の終点からは山道となり、谷沿いの道を進んだ。岩井さんは花に詳しく、教え



タチツボスミレ



イカリソウ





山丸高より山池上へ

でもらいながらの登山。イカリソウ、タチツボスミレなどが点々と咲いており、心優しくなる気分だ。姿のよい花を撮りながら進む。前の方に大群の黄色い花の群れが見えてきた。その前の方に大雪山で出会ったエゾノリョウケンカに似ていると思ったら、やはりリョウケンカだった。見事な咲きっぷりだ。強い黄色の大ぶりの花が株になって、左右の斜面にいっぱいだ。

しっとりとした沢仕の道がいつしか谷から高くあがってきて、ブナ林の合い間から行く手に岩壁が見えてきた。或る所を

ころつけた頃々とした壁はなかなか見えた。1000m超そここの低山にはとても見えない迫力だ。それにブナ林の新緑と沢筋の雪渓との調和がまぶしく美しい。山腹を巻く道が右へ大きく回りこむと、道は雪渓を横断していた。その手前で、女性グループがアイゼンがないからと引き返す相談をしていたり、あきらめてお弁当を広げている人たちがいた。私たちはアイゼンを巻け、ピッケルで確保しながら雪渓を渡り、また危ない道を登る。同じ雪渓がすぐ近づき、道は並行しているのが分かってきたので、道はずれ、雪渓登りに切りかえる。爽快だ。行く手右方に流が流れてくる。岩壁が迫り、アルプスのようだ。流を見下ろす所まで上れば、もう谷の源頭部。ジグザグの急登をくり返して以前11月に来た時、水を飲み降りた水場に落ちた。このあたりから上はカタクリがあらに咲き始めた。雪渓から上では誰にも会わなかった。上には誰もいないだろうと思っていたのに、子供の声がある。ではないか。夜叉ヶ池へ降りて行く。たくさんの人がある。福井県側からは登山者もいる。そちら側も谷筋の道で流があり、美しい景観であるが、景観の充実度は断然

岐阜県側が秀れている。池の畔には人がいるので、木の間にテントを張って枝からロープで固定した。午後1時になっていたが、急いで食事をして、高丸山を往復することに決める。天気予報では明日は悪天候と聞いていた。しかし周回には花はなく、いまは今日中に登頂することが最大の目標となって目の前にあるのだから、それを達成する楽しみが全身にみなぎってくる。ジャンクションピークからしばらくは薄氷踏み跡があったが、ヤブこぎの様相を呈し始める。荷物は怪しいし、一本の屋根をたぐり進むだけだから安心だ。尾根がたわんでくると、雪が残っている所が多くなり、尾根の上を外れてでも雪を求めて降りていき、雪の上を歩く。雪の上なら数倍の速さで前進できて楽しい。鞍部から高丸山への登りがゆるく始まり、一段高くなった平らな所からブナ林を前山に山頂部が展望できた。振り返れば、朝登ってきた谷の流が流れている

付近の岩壁の東側が見え、ゴツゴツとしたスカイラインが逆光で写っている。雪の上を歩くほうが多いので、ヤブに突っ込む時も、次の雪の場所はどこかを、ヤブの間から捜しながら、自分のカンが出たかどうかを察しむ気分だ。ゆっくり高みに進んで行く。全く自然そのものの中を、経験でうまく進んで行ける楽しさは何よりも深く大きい。雪があれはあるで、1日近く残っている雪もあり、その複雑な山の貌に驚く。

夜叉ヶ池より2時間20分かけて山頂に着いた。二角点の周りが少し刈り払われていて、坐ると草水が高く、展望はなくなるが、空を見上げるだけでも大満足だ。低気圧が近づきつつあるから帰って来てあまり遠望はきかない。貴重な山頂での記念撮影をした。長い間思い描いていた久遠の山に登った感激を一人で味わった。

雪は厚くなり、突然の時間よりも遅く感じられ、速い歩調でまたヤブこぎと雪上歩きをくり返して往路を戻った。雪の上には足跡があるので前を判断する必要もなく気楽に進めたが、ジャンクションピークへの登り返して、少々疲れた。とっぷり暮れる一歩手前の18時35分に夜叉ヶ池に戻った。

しかしそこで待っていた光景に、私たちは愕然としてしまった。二方向からロープで引く張っていたテントが、宙に浮いている。それもテントという形ではなく、ナイロンの不定形のシートが、ひもで引く張られていると言った方が適切な情景だった。その周りにシュラフやマットやら、食料にコンロ、コックヘル、小物類などがバラバラに散らばっていたのだ。雪が降りてくじしゃになった雪土質の雪原の上。激しくなってきた風が、テントのわずかのすき間から入り、テントを浮かしたので中の物がゴロゴロ動き、自然にファスナーがはいって、この状態になったのだらう。闇が迫り来ると騒いながら、散乱している物を十数回四方から回収した。

その夜は台風のような強風と大雨に見舞われた。ポールが折れ、テントを突き破った。外に出てびしょ濡れになりながら、予備の靴ひもで補修した。しかしテントの中は大きくなった。空間は著しく狭くなった。いつの間にか眠ってしまったが、それは雨や風が弱まった明け方になってからだった。

次の日は早朝から雨が差し始め、昨夜の出来事が嘘のような安定した大快になった。

登山用品専門店  
ザックのことなら  
おまかせ下さい。  
**IMOCK**  
KOBÉ  
**神戸ザック**  
神戸市長田区大橋町9丁目3-1  
〒653 TEL (078) 621-5851  
FAX (078) 621-3528

往路を1時間30分も余分に時間をかけて、流や雪渓、そして花々の撮影を楽しみながら、下山した。

(平成6年5月3〜4日歩く)

△コースタイム▽  
池ノ又谷林道標高5800m駐車場地点(1時間) 林道標高尾尾(2時間) 夜叉ヶ池(40分) ジャンクションピーク(1時間40分) 高丸山(2時間30分) 夜叉ヶ池(4時間30分) 池ノ又谷林道標高5800m  
△地形図▽2万5千1:25,000 上、広野



### 三峰山地の静かな稜線歩き

## 修験業山・栗の木岳縦走

大峰

酒井賢治

昨年4月下旬から5月にかけての私の山行は、例によって一機集中登山で三峰山地や白河千穂東部の山々に集中した。

バスによる日帰り登山の途程は時間的に厳しかった。山仲間と登った3回目の局ヶ岳は相変わらずの好展望で、山頂で地元の人よりこの辺りの山々について種々情報を得た。昔の古い三峰山には初めて登り、腰かい八丁平で転倒をした。最も古い古ヶ丸山はデント泊の山行だったが、生憎の天候だった。そしてこの山域の締めくくりとして、三峰山の東に接する修験業山から栗の木岳を縦走した。

この二つの山は岳の洞から最も近く展望でき、その山容も素晴らしい。西の高見山

から東の局ヶ岳まで延々と連なる三峰山脈のほぼ中間に大きく崩壊する三峰山、そのすぐ東に緩やかに背を伸ばす修験業山と形の似てピラミッド型の栗の木岳が対峙する。

この山域は、北麓の美杉村から登るにしても、南麓の飯高町から登るにしても、京阪神方面からはとかく不便であり、バスによる日帰り登山は不可能に近く、山ガイド誌にもほとんど紹介されていない。私の知る限りでは、地元・福井止身氏の著『飯高・美杉・松阪の山』に掲載されているくらいだ。昨年5月28日、例によって近道マイカーでの日帰り山行でこの二つの山に登ったが、快晴に恵まれ、誰一人として人に出会わな

岳の洞山頂より修験業山(右)と栗の木岳(左)

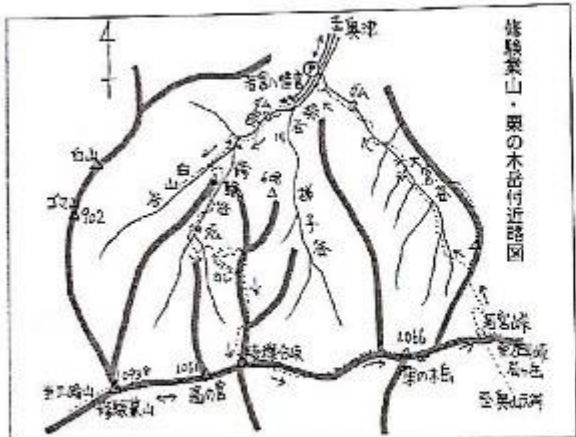


い静かな趣のある縦走を楽しむことができた。

6時、長男連転のマイカーで自宅を出発。西名坂道を走り、針ヶ谷より名張へ出て368号を南へ走る。須賀山、大洞山、岳の洞などの山々を見て、8時過ぎ伊勢頭岳に着く。ここで崩りのバス時刻を確認し若宮八幡宮への林道を走る。崩りはこの約7.5歩を歩かねばならない。8時30分、若宮

八幡宮駐車場に着き、長男を自送する。休日だというのに快く送ってくれる息子に感謝。

石灯籠の立ち並ぶ参道を行くと、少しで右に社務所、正面に集客舎が建つ。ここで赤い旗を渡り、集客舎と深谷川の間の小道を行くと木橋があり右岸に渡る。若むし



修験業山・栗の木岳付近地図

た右の山道を右に環状や岩壁を見て進む、樹間の不動前に着いた。白山谷本流に魚止めの滝がかり、右から小さな谷が出合っている。滝の前で左岸に降り、左へ上がる。本谷への山道に登り、熱止めの滝を登る。すぐ上流に一本滝が止まっている。白山谷左岸に沿って登ると左に「修験業山」(高の宮へ)の道標があり、不安定な三本丸太を右岸に渡る。左へ支路尾根を登るように乗っ越し修験谷に出て、左岸につけられた山道をぐんぐん登る。深は急で清流が飛沫をあげている。上流で右岸、左岸と飛び石で渡ると10分程の砂防堰堤に突き当たり、これを右かかると左かかると支谷が出合い、深は幅広く開ける。ここでビニール紐に

巻かれて対岸に渡り、小屋根の崖を登り、途中で右側の崖に長いガレが尾根より下っていた。時々このガレを右に巨なガレ山腹をクワナダに急登する。きつい傾斜だ。

9時30分主稜線から下る太尾根にのる。気持のよい風が流れていた。ここから樹の疎林の山道を登ると、石橋花や馬酔木が迎える樹間の細尾

根になり、右下に先程のガレを見る。灌木に囲まれた可愛いピークを過ぎ、ロープが張られた急な斜面を登ると、尾根はいったん平坦になり左へ小さな支尾根が下がる。逆コースの場合注意を要す。右へ樹林の中をゆくときに露が湿じりの道となり、稜線を目指して灌木のヤセ根を登る。北面の要所が一気に開け、近く岳の洞や大洞山のドームを見る。平坦な稜線の樹林帯を通り10時過ぎ、稜線の境界分岐点に着く。

バイケイソウが疎生する樹間の広場で、左へ栗の木岳、右へ修験業山の道が延びる。まず右へ小岩が足元を埋める縦走路を、所どころに露出する岩に注意しながら登り10時10分、二面の背のピーク(1066m)に着く。

展望は北方向近くに岳の洞の大きな山尖。その向こうに大洞山、須賀山、須賀山、須賀山、古光山、回見山、住家山が頭を出している。眼下には若宮八幡宮の駐車場も見えている。南方向に先日登った迷宮をはじめとした台高主稜線東部の山々、そして遠く大台山系を見る。夏らしい石の真尻、貫石、石鏡などが造られ、自然石の神体が回られていた。

すぐ西へ、小笹を数きつめた自然林の気





高の空ピークより手前岳の河と雲生火山群を望む

ているが、これが賢明というものだ。誰も  
が容易に歩ける谷ではないようだ。  
右に徐々に広がる大宮谷の溪谷を眺めな  
がら、不明瞭な踏み跡を求めて左岸を下る。  
左より支谷が入りこれを飛び石で渡る。ま  
らに下るとまた左より支谷が入り、これを  
渡る。対岸に古い石橋がある。この辺り、  
谷は明るく開けているが南岸の山肌は急傾  
斜で谷に下がっていた。  
左岸へ下るとまた左から20分程度の細い滝  
を降った支谷が合流し、飛び石で渡りさら  
に進むと、踏み跡は完全に消え、右下方に  
滝の落ち口を見る。対岸の木に巻かれた古  
いビニール紐を見て木流を飛び石で渡り、  
滝右岸の岩場を下る。谷筋は一気に狭まり、  
一層谷を詰す。すぐに右から小谷が出  
合い、これを渡って河床へ下る。後は左岸、  
右岸とビニール紐に誘われて下ってゆく。  
再度支谷が大きく開けるところに砂防堰堤があ  
り、右岸の木橋を下ると植林の中の歩き  
やすい山道となり、少しで溪谷川との出合  
いに出た。対岸に渡りコンクリートの階段  
を登り15分、今朝の駐車場に着いた。  
土産物の商店の明子と話を交わす。毎年  
5月3日は若宮八幡神社のお祭りだそう  
で、多くの信者が高の空へ参拝登山をするそう

だ。また、近くの高台に望遠鏡が設置され  
ており、雨ならにして高の空を拝めるこ  
のこともあった。  
14時40分、駐車場を出発し、約7.5の長  
い林道を歩みよく歩く。中村の集落あたり  
から後を振り返ると、新線いっばいの栗の  
木流が△の字型に巻いていた。16時10分、  
川上バス停に着く。36分先の名張行きの  
バスに乗り、美津を後にする。  
(平成6年5月28日歩)

△コースタイム▽  
駐車場(5分) 若宮神社(15分) 白山谷を  
渡る(30分) 修験谷砂助(30分) 尾根  
にのる(40分) 主峰(30分) 修  
験谷山(50分) 栗の木岳(30分) 若宮峠  
(1時間30分) 駐車場(1時間30分) 川上  
口バス停

△地形図▽2万5千1:10000  
昭文社「58新日本・信濃高原」  
△注意▽  
本コース中の白山谷一帯は、昨年夏の台  
風で崩壊しており、登山道も定かでないの  
で、事前に若宮八幡神社(Tel.0599-  
7440157)に連絡して現況を確認  
されたい。

持ちのよい修験登山への縦走路を登り10時  
30分、3等三角点の息掛地まる修験登山山  
頂(1093.8m)に着いた。  
樹木が茂り茂り、西へ三峰山への鞍  
線踏み跡、北へゴマ山、白山への尾根道が  
下っている。誰もいない山頂で静寂のひと  
ときを過ごす。この山だけの登山であれば  
北へ白山への道を下るのであるが、今日は  
このあと栗の木岳が待っている。  
10時40分山頂出発、往路をのんびり引き  
返す。高の空に着き、再び小休して展望を  
楽しんだ。それにしてもここから栗の木岳  
が見えないのが残念だ。  
11時10分、高の空ピークを出て元の鞍線  
分岐点に戻る。ここまでは修験登山をビス  
トンしたことになる。分岐から東へ栗の木  
岳への縦走路に入るが、急に道が悪くなる。  
栗の木岳の鞍部まで踏石の多いヤセ尾根を  
幾度も上下する。右側所どころで樹間より  
飯場の村々や山が垣間見える。  
鞍部からは猛烈な風のブッシュだった。  
骨太の笹が道を塞ぎ前進を阻む。しかし、  
栗の木岳への道は笹の下になっているが明  
瞭であった。ブッシュから抜け出し小さな  
ピークを越えると、自然林の中の踏み跡を  
求めて緩やかに登る。やがて石楠花や馬酔

木が群生する急な登りとなり、11時50分栗  
の木岳頂上(1066.6m)に着く。  
北方向が開け、赤松の木のピークで見  
た展望が少し角度を変えて広がる。他方向  
は樹木が茂って目道は良くなかった。こ  
こで昼食にする。弁当箱のフタに大きな蝶  
が一匹這い入り回っている。近くの里での  
んびりとした時間を知らせるサインが鳴っ  
ている。長閑で時間が停止しているような  
山頂のひとときであった。  
12時半、栗の木岳頂上を出る。灌木帯の  
急坂を東へ下る。少し下った所で縦走路か  
ら突き出た踏石があり、その上に立つと東  
方向に胸のすくような展望が広がった。  
中程に頂上部を突らせ、急な登りとなる。同  
期、その後ろ遠く台場山、柳坂山、緑谷山  
など松阪の山々や上河原方面の山が薄霧に  
山並みを重ねていた。眼下の若宮峠から東  
へ延びる堤防線はくわくわくと曲がり、局  
ヶ岳へ連なっている。今日一番の素晴らしい  
景観だった。  
露苔の層雲谷から下るとまた世のブッシュ  
で、これを通過し樹林の急坂を下る。きつ  
い傾斜だ。それもそのはず、どこから見ても  
鋭角の栗の木岳東面をいま下っているの  
だ。不明瞭な踏み跡をビニール紐を頼りに

下り足踏むとき、若宮峠に着く。樹間の中の  
落ち着きのある所で、真っすぐ尾ヶ岳への  
縦走路が上がり、南へ奥山天狗、北へ大宮  
谷から若宮八幡神社への道が下っている。  
さて、どちらに下山しようかと迷案の木、  
大宮谷を下ることにした。  
栗の木岳北東山腹の出眉多い道を下る。  
所どころで踏み跡は消えそうになるが、ビ  
ニール紐をよく確認しながら山腹を登くと、  
疎林の幅広い尾根となり緩やかに下るよう  
になる。2万5千地形図では、この尾根上  
のピーク760mを越して大宮谷に下る機  
縁が描かれているが、私は途中の木に巻か  
れた赤テープに従って左下の大宮谷に下っ  
た。疎林の尾根側面を下り、源流右岸の前  
れやすい砂礫帯を渡り、左岸に渡り、古  
いビニール紐に導かれて不明瞭な踏み跡を  
下る。小尾根を左へ巻くとまた谷が現れた。  
これがどうやら大宮谷本流らしい。再び左  
岸に渡り消えかかった踏み跡を探して下る。  
この道は険路でほとんど歩かれていないよ  
うだ。ビニール紐にしても隙以前に付け  
られたものようだ。エアリアマップの旧  
版では、このコースは破線で記されていた  
が、新版では記されていない。また、福井  
氏の作図においても本コースは×印が付い



荒川ダム・トロッコ軌道から

# 屋久島・縄文杉

岩田 喜久子

## 九州



縄文杉

しに替えている。山小屋はあまり無いようだ。縄文杉のある山は「高塚山」13396尺、縄文杉は13000尺の所にある。

屋久島の1泊目は「屋久島グリーンホテル」ホテルに1歩入ると、とても良い木の香りがする。フロントの横に大彫りの壺、茶だんす、お仏壇が並べてある。総て屋久杉の芸術品、繊細な彫刻が見事だ。二千方内もする仏壇に赤松の木の札がついている。この杉は明治時代に伐り出され、水分をとるため長い年月保管されて、又長い間かけて手彫りで仏壇になったそうで、入念な仕上げである。そう聞けばうなづける売値だ。

6月3日、朝4時に起きる。雨に降っている。嬉しい。出発は5時、バスが待っている。朝、昼のお弁当と雨具、水筒、予備食だけをサブザックに入れる。

ている。鹿児島港から屋久島までは、ジェットfoilで2時間半、途中種子島に寄る。ジェットfoilは向速航で時速80キロまで出る、あまり揺れないし快適だ。ボーイング社が開発したそうだ。屋久島の宮之浦港着16時10分、天気良好。

何とびっくりした。見上げるような山塊が重なりあっている。地図で調べると、標高2000以上の山がたくさんある。九州で高い山の10座の内、8座までが屋久島に響いている。一番高い「冠之津岳」が1935・3尺、次が「水白岳」1886尺、「黒味岳」1831尺、「安房岳」1830尺、「翁岳」1826尺、まだまだありそう。島の周囲105キロ、その中に山がめぐる押

世界自然遺産指定の屋久島となった屋久島の細文杉を見る機会に巡り合えた。一度は断りしめてみたい山だった。ある登山会に植野女史と二人で参加した。

屋久島は1ヶ月の内、雨が25、26日、晴れる日は4、5日と聞いている。年間雨量が4000ミリとある。もう九州地方は梅雨に入っているので天気だけが心配だ。

6月2日、大阪空港国内線出発ロビーに8時集合。早めに行き差支票を受け取りザックを預け、ゆっくり朝食をとる。9時15分離発。大抵は本当に良いお天気。この天気を屋久島まで持って行きたいと熱望する。鹿児島着10時20分、天気良好、バス50分で鹿児島港着。桜島がゆっくりと煙を吐い

バスが走り出して5、6分すると、茜色だった水平線にはぼつりと矢色の太陽が出た。5時7分、屋久島の日の出だ。何かとても感動を覚える。バスは林道を走るのが舗装されていないので揺れる、揺れる。50分程で荒川ダムに着く。ここが登山口、皆で登山用の準備体操をする。特に足の体操は入念にする。

登山口は標高6000尺、6時に出発。歩き出してすぐに岩山をくりぬいたようなトンネルに入る。トンネルをゆくと道はトロッコの軌道だけ。普通の山道は無い。軌道の枕木を踏んで歩く。この道が、2時間半続



屋久島・縄文杉付近略図

く。川を渡る時も軌道の上を歩くので景色を見る余裕は無い。鉄橋の上だけ真ん中に板が置いてある。しかし自分の足元しか見られない。うっかり自爆を外すと頭がぐらつとす。こんな鉄橋渡りが5、6か所ある。枕木が古くなって軌道がゆかゆか揺れる橋もある。軌道歩きは疲れる。小刻みに枕木を渡る。自分の歩幅に合わない。一本飛ばすと軌道がゆかゆか揺れる。黙々と軌道歩き、ずつと川音が聞こえて来る。

「小杉谷」で小休止。次は「三代杉」で5分休憩。天気は上々。8時20分やつとトロッコ道が終わった。遅れている人々を待って10分休憩。ここで荒川と別れ、山道に入る。「大株歩道入口」の案内板がある。

屋久島の登山道は、岩とむきだし木の根が盛り上がり、噴き出した所を登る。踏み跡なんか全然分らない。先頭は土地の山案内の方である。膝まである長い地下足袋で足元を固め、ひよひよいと実に身軽に岩から岩へ、木の根から岩へと登って行かれる。我々はそうはいかない。大きな岩や、倒れて道をふさいでいる木に膝からよじ登り、両手を使って飛び降りる。なかなか変化に富んでいる。だからとただひたすら登るのではなく、どうしてここを越え

ようかと考えながら足元に気を配り、間違っただコースに入らぬとそうついて行かねばならない。前の人とちよつと距離が空くと、どこを登るのか分からなくなる。一緒に登る植野女史との間隔が空いても、見通しが悪いのと自分のことで精一杯で、気になっても振り返る余裕がない。

「翁杉」に着く。若者が道標持ち込みでキャンパスを立て、絵を描いていた。なかなか豪華に見える。9時15分、「ワイルドソング」に着く。大きな、大きな木株だ。縄文杉を見つけたワイルドソングの名が付いているとか。もう一つ縄文杉を上回る杉を見つけたが、場所の確認が取れないうちに亡くなられたので、その場所はわからぬが、どこか深い山中に大きな杉があるらしい、と土地の方が話して下さった。

ワイルドソングの中は、広い空洞になっていて雨が降ってあり、清水が流れ出している。空洞の中には相当数の人が入れている。ここでカメラを構えたり、パンを食べたり、ややゆっくり休憩する。

縄文杉に向けて出発。次に出会ったのが「大干杉」、どっしりと人を近づけぬ雰囲気のある杉だ。次が「大雄杉」、3、4尺の間隔を空けて立つ二本の杉の枝がしっか





大王杉

りや上であつてゐる。手をつないでい  
るようだ。何かほのぼのとす。細文杉ま  
であとひと息。うう、そうと茂る木の間を見  
上げる。見えた。一気に釜釜を登り「巖  
文杉」と対峙する。

この姿を見たときにはるる京都から一日  
かけて来た甲斐があつた。11時40分着であ  
る。木肌が何とも言えぬ。早くそばへ行っ  
て木に触れたいと思ひながら、ぼんやり  
と見入ってしまった。細文杉の前10分ほど  
は杉の根が這つてゐるので踏んではいけない。  
い。ロープが張つてあり、そのロープ伝  
いに杉の前立つ。首が後方に直角になるほ  
ど見上げても梢は見えない。樹齡7200  
年とある。そつと木肌に手を置き、木に耳  
を当てる。心も頭も空っぽ。確かに杉の精  
が宿つてゐるようだ。「会えたね」それだ  
けだつた。細文杉の幹は実寸で4層、計  
算上は直径5・1層とか。屋久島の木は、  
質、樹、杉が大半で樹高6000層か上で

しか自然に育たないらしい。  
山案内の方にカメラを渡して、下から写  
して置く。私のカメラではどんなにしても  
杉の半分もファインダーには収まらな。こ  
こで釜釜をとりゆつくりする。

ここから山頂と高塚山の頂上で山小  
屋がある。名残惜しいが下山の時間、こ  
こでは下山のほうが、時間がかかると言わ  
れた。普通の山道のようにとつとつと下る  
わけにはいかない。鈴屋が一歩進み、どこ  
でもそうだが、特に屋久島では足を痛める  
と下山は人手に頼るしかないのだ。

下山の途中、こんな所を登つて来たのか、  
と戸惑うような箇所が時々あつた。足元に  
気を取られて一度だけ斜めに道をふさぐ木  
の幹に頭をぶつつけてしまった。注意、注  
意と自分に言い聞かせながら下る。大袈歩  
道が終わるとあのトロッコ軌道が待ってい  
る。2時間半つらい道が続く。鉄橋の帯り  
は一歩一歩慎重だ。たのみに、下りは慣れた  
のか、とつとつと渡つてしまふ。足が勝手に  
に動いた感じがした。

軌道歩きにうんざりしかけた時、後ろか  
ら笛のような音が聞こえてきた。振り返る  
とトロッコが勢いよく下つて来る。びっくり  
して横で軌道から外れ、狭い道なりに身

鹿野島の代表的人物、西郷隆盛の明治維  
新当時の軍服姿と羽織袴の、堂々とした銅  
像を見ることも出来る。

今回の山行き、本当に参加して良かった。  
雄野女史も満足している。

屋久島の縄文杉、ありがたう。  
訪れし、屋久杉の里、空澄みて  
登つて来いと、招く大王

本古より、ひっそりおわす、縄文杉  
語りべなされよ、世紀の歩み

山と海、世界遺産の、杉守る。  
屋久の里へ、日焼けし笑顔  
平成8年8月25日歩く

△コースタイム▽  
案内(バス約1時間) 荒山ダム(軌道約1分)

小杉谷(軌道約1分) 荒山ダム(軌道約1分)  
三沢杉(軌道約1分) 大袈歩道入口(40分)  
ワイルドソング(50分) 大王杉(50分) 縄文  
杉

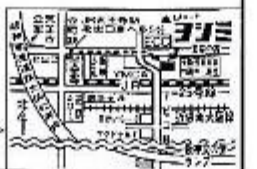
トロッコ軌道はほぼ同タイムを要する。  
△地形図▽を万々千に官を要する。

を避ける。トロッコには今も山の保全のため  
に働く人達が薪材といつしよに集つていた。  
17時、荒山ダムの登山口に到着。石ころ  
だらけの登山口にへたり込む。疲弊びたい  
気分だ。バスが待っていてくれた。  
午後も時から17時まで、11時間。休憩時  
間は全部で1時間、10時間20分、よく歩  
いたものだと、何か消々しい気分になる。  
今夜の泊まりは「国民宿舎 屋久島温泉」、  
海辺の宿に着いたのは19時。雄野女史と二  
人で一室買ってはつとす。気がわなくゆっ  
くり温泉につかり、豊に寝そべって花に花  
が咲く。

屋久島は「とび魚」がたくさん獲れるら  
しく、昨日の夕食はとび魚の唐揚げ、びん  
と立ったとび魚のひれが、お煎餅のよう  
でおいしかったが、今夜もとび魚の唐揚げが  
出た。ご飯は今はやりの割合米なのかばさ  
ばさだった。この調子だとまだとび魚が出  
てきそうだ。

6月4日、今日も上天気、屋久島探訪で  
一日過ごす。「亜熱帯植物園」、「志戸子ガ  
ジュマル園」、「屋久杉自然館」、宮の浦で  
屋敷、又とび魚にお目にかかる。「水田派  
海船運通地」、「平内海中温泉」、「大川の滝、

低山登山~本格トレ  
ッキングまで、  
登山用品のことなら  
おまかせ下さい。



とスキーのヨネミツ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70  
TEL 06(772)7231

JR天王寺駅  
北出口右へ  
歩道橋渡ってスク



# 野の花讃歌 (9)

市川 正次朗

## 苔むす石畳に古しのび



待ちに待った5月の連休、ことしは旅費が多いようだからのんびり野山歩きをとの提案に全員一致。新ハイキング誌に尾崎弘毅氏が連載されていた熊野古道に出かけました。

初日、紀勢線で紀伊田辺へ、バスに乗り換えて滝尻へ。この辺りが熊野詣で中辺路コースの山登高。道標も完備、バス停すぐ近くの滝尻王子に手まを合わせ古道に分け入るが、予想に反して、こうな登り。汗をふーふーかきながらも、道すがら次々現れる「王子」(そのいわれは尾崎氏の連載で)の前で小憩をとりながら歩きました。後継に出てからは快適な空中散歩。途中、熊野の三休月(年に一度、月が3つに分かれて昇る)で有名な悪四郎山を經由し

て予約した近隣の宿へ。かつて熊野詣客でにぎわった宿場も今はのんびり。熱年夫婦の手による山菜料理の夕食に「おいしー」の連発。女性は美味この上ないイタドリのお惣菜のつくり方を聞き、男性は明日のコースの見どころなど教えてもらう。夜、窓の外は雨天の嵐。

翌日、私からは帰阪しなければならなかった。熊野詣へ行く時間歩いただけでバスに乗りました。本当は宿のご主人に教えてもらった地形地蔵にお参りしたかったのですが……うっそうとした森の中、子供やお年寄りのオバケに出会うかも知れないけれど、願いごとはよく聞いて下さるといふのですから。

この旅で印象に残った花は、小さな花のワンゼンソウとキンランでした。

## 自分だけの山の花



今この季節、とこの野山を歩いても花がいっぱい。私たちが大好きなグループにとっソソで一番楽しい時であり、最もひんぼんに家をあげ家族から嫌味のひとつもふたつ

も言われています(これは私だけ)。京都・北山をベースに、最近足鈴鹿、奥美濃あたりへ、その山々で出会える花を築きしみに足をのぼすようになりました。けれど、予想に反してほとんど花が咲いていなかったり、花期が前後してがっかりする。こともしばしばですが、時には思いがけず見事な群落に出くわすことも。

たとえば京都・亀岡近くのそれほど高くない山の小さな谷間。5月下旬になるとイチリンソウ、ニリンソウ、ヤマリソウが群れ咲き、ヒトリソウも、雑木林の中に揺れる陽香の木もれびが、チロチロと、小さな花たちにやさしくそそぎます。

たまたま見つけたお花畑。めったなことでも詳しくは人に教えませんが、教えた人からまた誰かに伝わって、心ない人が自分の庭に持ち帰ったり、そこでパーベニューなどして欲しくないし、何よりも自分だけが知っている花園を築きみたという、極めてエゴイステックな気持ちによるものです。

昨年見つけたイチリンソウなどのお花畑。ことしも頃を見はからって出かけてます。誰も知らない、ハイカーもめったに通らない場所だけに、その花たちが私たちを待っていてくれるような気さえするからです。

## 京都北山

やぶ漕ぎ痛快山行記 (20)

## 山アジサイ群生地は満開だった 愛宕山大杉谷源頭探勝

集合地、清滝川金鈴橋橋詰にはリーダーとNさんが待っていてくれ、頃合いの7人のパーティだった。

昨日、1時間に30分の豪雨が降り、清滝川は川底の岩をものみ込むほどの濁流。リーダーより、「今日は大杉谷のヒグラシの流上り水量が多いと思われれますので、屋根から群生地へ行きます」と指示あり。8時40分、梨の木谷林道へと出発。梅雨の強い低気圧の中心が昨夜のうちに東へ去り、今日の天候は快晴、雨に洗われた木々の緑は芽え、空の青さに映える。

金丸作業道の鎖止めのをまたいで、大杉谷ユリ道に入る。6年程前、金丸林業が索道

## 京都北山グループ

木出し集積のため作った、左の板橋の谷沿いに取つく。リーダーはこの谷の名を聞く、「不眠谷」と言い、旧愛宕山ケーブル軌道の北東の小谷で、空世の滝下で大杉谷と合流すること。この谷道にかすかな踏み跡があるも、杉植林5年生位の斜面からイバラ生え込みのブッシュとなる。群の威力で右の屋根根柢木林の裾の仕事を脱出する。登り進むと木出し集積の切り開き急斜面に出くわす。仕事道を右に見送り、左にたけたワラビの斜面をイチキ登りでさっきの杉植林5年生の上層に出る。

後方を見れば、西谷尾根と等しくなる程高度を稼いだ。ここまで来れば現在地も打

杉の樹下に山アジサイが花盛り



およそは見当がつく。旧ケーブル軌道第2トンネルの両巻き地点の下の雑木林を出た所である。東南方面の展望が開け、京都タワーや本願寺の御影堂など大きな建物が方向の日安となる。

ここからもイバラと絡みながら高巻き道と合流し、金丸作業林道を横断すると、ケーブル軌道第2トンネルの上に出る。大杉谷から吹き上げてくる風は、急登の音聞、







# 近江側から登る鈴鹿の山々

——鈴鹿の思い出・おもしろ話——(2)

岩野 明

### ⑤ 密猟

3月、稲ヶ谷から雨乞谷に登ろうと、谷の入り口から約20分歩いた川岸に、カモシカの死体があった。よく見るとまだ新しい。しかも頭部と皮と尾だけで胴体がない。その横にカモシカの胃の中のものと思われる木の皮の繊維などが未消化のまま多量にある。齧痕だ。この谷でカモシカを解体して谷の水で洗い、胴体だけを持ち帰って鹿の肉だと言っても疑う人はまずいない。しかし鹿の餌食の現存、天然記念物のカモシカを食べようと考える人の心が理解できない。あざされてものも言えないとはこのことか。

### ⑥ お尻のおぼけ

鈴鹿峠から高畑山に登るため、峠の手前

楽しみました。持っていたがアホらしくなり、水に入り彼らのいる大岩の横を過って向かい合った店の上に上がり、ザックを下ろし一服しながら濡れタオルで体の汗を拭き、地下足袋をスリッパに履き替えて引きあげた。ニッチなオッサン、どこから来たんだらうと、驚いた様子の2人は、ついに顔を上げなかった。

### ⑦ 中年女性は強い

御池谷の秋を充分満喫し、ついでにサタンブチの紅葉を楽しもうと13日過ぎ、奥の平の平南から笹をかき分けて終めに下った。すぐ滝又を越す世に変わり、そろそろ左に曲がる所、目の前の道の中に何かが動いている。笹の中に入って見ると、中年の女性が一人居た。びっくり北天。

に車を停め、よく踏まれた道をゆっくり歩いて右に曲がった時、目の前の樹林の中に真っ白いお尻がある。アッと思ったがもう遅い、相手も気づいて振り向いてニヤリ。明るい日差しの中、薄暗い樹林の中を見つめると自分が慣れず、真っ白いお尻のおぼけが急に現れた。うたがった。女性でなくともよかったです。目撃した浅黒い若者の顔からは信じられないほどのお尻の白さだった。

### ⑧ すばらしい熱女たち

夏、白滝谷の遊行を楽しんだ時のことである。神前川の河原の岸の一段高くなった木陰で、ゆっくり用を足しながら河原を眺めていると、目の前を歩くらしい所を人が通った。しまったと頭を回して4人通ったが、

彼女がボクタンブチの紅葉がすばらしくかったと友達に聞いて一人て彼女から登って来たが、あまりにも道が深いので迷ってしまった。すると誰か下って来て道を指したので待っていたと言った。それならと一歩にボクタンブチに行き、眼下には広がる深谷の紅葉をゆっくり楽しんでから、奥の谷に下る分岐で別れた。

御池谷でも紅葉部のボクタンブチは深い笹のトンネルが続く。今まではボクタンブチだけで登るようなことはまずしなかっただろうと思う。最近の中年女性は強く逞しくなったなあと思ふ。

### ⑨ どどと大きな山がきている

甲斐池から藤の谷林道をバイクで入った

グリーンシャツを着ていたせいか気づかれなかった。

急いで始末して向くわめ顔で河原に降りると、来るわ、来るわ、地下足袋を履いた熱帯組、大坂から来たという約20名、天狗の滝まで行くとのこと。中には水に入るのを楽しんでるような人もかなりいた。女性の多くは薄手の白いブラウスを着ている。それが濡れた体にピッタリくっつき、豊かに垂れたバートからお腹、そしてその下、本人は気がついていないのかいのか……。ありのままの姿で登々と自然を来している。熱帯女性に強い、すばらしい。

### ⑩ 若いカップル

夏、稲ヶ谷から赤坂谷の遊行を楽しみ、下って来て神前川の河原を歩いていると、前方の大きな岩の上で、若いカップルが水着姿で寝転んでいる。近づいても、流れる音が響いて気がつかない。横を通るのも気がひける。約10分前の木陰の岩の上に腰を下ろし、一服しながら待っていた。

正面の林道とか河原の手前は、は気にはなうで注意している。しかし背後の道もない所から人が下ってくるとは夢にも思っていないらしい。そのうちバスタオルを掛けて

が、林道も登山道でも通れない。バイクを停めようかか迷っていると、地元の人に「どっこいよくかや」と聞かれた。「雨乞谷に降りたんでしょ」と上り口と「そらだなあ、この先に大きな山がきているぞ。」と大きな声かきで、歩いては行けるけれど、バイクは無理だわな」と言われびびくりして引き返した。

山側をそのまますばり、どどと大きな山がきている、とさうううい。さすがは山で働く人達の言葉だと思ふ。半年後、バイクで入り旧林道を進んだが、山崩れはどこにもない。かなり入った岩地蔵の手前に、山の斜面が崩れ林道を約20分塞いでいたが、どどと大きな山がきている、という感じとはほど遠い。期待外れ半分、さうとした気持ち半分を引き返した。

新ハイキング選書

●日本山岳会選定●

話題の本

第15巻 好評四刷発売中

第16巻 第三刷発売中

日本二百名山ガイド

日本二百名山ガイド

西日本編

川村静子 / 岡田敏夫 / 岡部紀正

川越はじめ / 廣澤和嘉 / 共著

320頁 1630円

45頁 320円

新ハイキング社

東京都北区高野川 1-5-13

(03)-3915-8110

〒114 東京都品川区 3-1-145915

●発行所の二社文庫発行社員印



# 奥ノ畑谷から雨乞岳

雨乞岳から雨乞岳、そして清水ノ頭と続く稜線上に奥ノ畑谷(1100m)がある。現在は白く剛化した坑が立っているだけで、両斜面は笹と雑木に覆われ、昔の峠道は跡形もなく消えている。数ある鈴鹿の峠の中で最も高所を越える峠で、西北に素晴らしい眺望が得られる。昔は清水ヶ平谷からこの峠を越え、奥ノ畑谷に下る道があったと言われている。奥ノ畑谷を地形図で見ると広々とした緩やかな谷で、昔は畑作が行われていたことが分かる。谷筋には古い道がかなりはっきり残っているが、峠に登る道は消えている。しかし歩いてみると案外楽に登ることができた。

奥ノ畑谷の左半分を右にとり、谷に沿って進み、左に渡ると前方左手の緩い斜面が急に明るくなり、荒地の草原になる。カヤ原がまばらに広がり、その中にウツギの群

落がある。白い花が一面に咲く時期は最高だろう。谷の奥に清水ノ頭の稜線も望める。草原の中にはけもの道が縦横無尽に延びている。草原を過ぎると栗の大きな木が茂る林に変わる。ここから上流にかけて栗の林がずっと続く。昔から栗の木は切らずに残しているようで、鈴鹿でこれだけの栗の大木が残っている谷はないと思われる。秋にはバ イケイソウの群落が美しいところだ。

広々とした谷には、はっきりしないが古い道が続いている。この谷で出会った溪流釣りの人から猿を投げられたと聞いた。猿もかなりいるようだ。谷に沿って緩い登りを通り、谷を右に渡って左に回り込みながら上流へと進むと、徐々に谷は狭くなり勾配も急になってくる。そして谷の分岐に着く。右の谷を登るとすぐ疎林の急斜面に

奥ノ畑谷より清水ノ頭と鈴鹿山を望む



急斜面を登るにつれ、後方の展望も開ける。清水ノ頭の稜線がイハイガ岳・鈴鹿山と続いている。登りつめると稜線の登山道に着く。左上が雨乞岳だ。

左折して笹と流水の緩急を過ると、登山道は右斜面の笹の中に続いているが、左斜面の樹林の中が笹も少なく歩きやすい。左の急斜面をストレートに登り、笹が多くなってくると、右の尾根上に登山道が現れる。雨乞岳はすぐ目の前だ。

雨乞岳の山頂はあまり広くないが、360度運ぶものがなく素晴らしい展望が得られる。笹に覆いつくされた雄大な雨乞



奥ノ畑谷下の笹原より奥ノ畑谷を見る

岳の全貌。その先に御在所岳、鋭峰鎌ヶ所から南に続く鈴鹿の主稜線。そして幾重にも重なりながら続く山並み、野洲川ダム・湖東平野・清水ノ頭・鈴鹿山・御池岳がぐるりと続いている。豪華な眺望をゆっくり楽しみ、雨乞岳に向かう。深い笹原の中に道が続く。

復路は奥ノ畑谷まで引き返し大峠に向かう。峠からの下りにかかるあたり左斜面に大岩が突き出ている。この岩の上はかなり広く、最高の休憩場所だ。目の前に展開する明るく開放的な清水ノ頭の草原、その先にどっしりと根を張った鈴鹿山。特に残雪

変わり、やわらかな草がピッシリ生えた気持ちのよい斜面になる。この谷で水を確保して、草付きの急斜面を左右に登り支尾根を進むと、高さ40〜50cmの笹の生えた樹林帯に変わる。そして右斜め上の樹間から明るい草原が見えてくる。この笹原に向かって右斜めに登ると、一気に展望が開ける笹原に出る。真上が奥ノ畑谷の稜線だ。風が強いせいか道は低く、どこからでも落ちる。

期の眺望は、大きなスケールで鈴鹿とは思えない景観を見せてくれる。このルートを運ぶ場合には必ずこの岩でゆっくり休むことにしているが、笹原に雨がよくなり、清水ノ頭から右にとり大峠に向かうと、左斜面は杉の林の中にスタックがある。さらに進み右に回り込むと石剛化の群衆が現れ、やせた岩壁に変わり、小さな岩路に着く。眼下には奥ノ畑谷が大きく広がり、雨乞岳に突き上げている。ここでは通ってきたルートが確認できる。急斜面を注意しながら大峠に下り、右にとりながら谷ルートを下る。このルートはかなり荒れていて道も消えている所がある。注意しながらテープの印を下ると峠切谷との出合いに着く。

### ▲参考タイム▼

- 工事用広場(50分) 奥ノ畑谷左半分岐(15分) 草原(1時間) 奥ノ畑谷(25分) 雨乞岳(15分) 雨乞岳(40分) 清水ノ頭(1時間) 大峠(50分) 峠切谷・ツルベ谷出合(40分) 工事用広場

▲地形図▼を方き千里御在所山・日野東部  
昭文社「145御在所・鎌ヶ岳」

(菅野 明)



# 雨乞岳西尾根を歩く

早春の残雪期に雨乞岳に登り、西に延びる西尾根を途中まで散策したが、途中で西北東に素晴らしい展望が得られた。地形図を見ると、この尾根は藤切谷の支谷・奥ノ畑谷の出会いからほぼストレートに突き上げていて、この西尾根ルートに3回アタックして奥ノ畑谷の左俣から登る最短ルートを見つけた。尾根のガレ場からは尖峰イハイガ岳、そしてどっしりと根を張った縹向山が望める。1000mを超え中腹には炭焼き窯の跡があり水場もある。雨乞岳の手前60〜70分は背丈を超す笹に覆われ敷きになるが、目立つ印を付けておいたので迷うことはない。人が全然入らないこのルートは、野生味満載、素晴らしい思い出を残してくれるだろう。

杉峠に向かう千草越えの道を進み、大峠への登路のあるツルベ谷の出会いを過ぎる

と右下に、流の音が聞こえてくる。右前方に切れ込んだ谷が樹間から見えてくる。この谷が奥ノ畑谷だ。砂防ダムのある河原を渡り登り上がると、すぐに道標があり奥ノ畑谷への分岐に着いた。右折して細い道を走り左に回り込んだ時、目の前の道に子鹿が一頭いた。アッという間に左斜面を登って消えた。右下は奥ノ畑谷に変わっている。尚、この谷の出会いから尾根に取りついて登ることもできるが、やせた岩稜と急斜面の登りが続く。谷に降りて右岸に続く道を辿ると左俣の分岐に着いた。右は奥ノ畑谷だ。左にとって谷を渡る道が分かれた。左折して右に回り込み左下の谷に沿って登ると、樹林の中に炭焼き窯の跡があり道が消えた。谷を左に渡り樹林の中を谷に沿って通り右に渡り返して進むと、右から支谷が深く切れ込んでいて、本流に沿って進む

雨乞岳西尾根よりイハイガ岳と縹向山を望む



と、谷の左は大きく開けた広い谷に変わった。谷を左に渡ると大きく茂る樹林の中に古い道が現れ緩い登りが続いた。その時前方樹林の中に、鹿がシューと震い声を発して白い尻を見せ、奥に走り込んだ。奥にもう一頭いた。このあと3頭共左斜面に消えた。前回にもこの谷で3頭の鹿に出会ったが、雨乞岳山系にはかなり生息しているようだ。この谷には山笠の太木がか

なりあり、花の時期は素晴らしい谷になるだろう。

右側は切れ込んだ谷が続いていた。左に炭焼き窯の跡が現れると、斜面は次第に急になってその左上に尾根の鞍部が望めた。急斜面を鞍部に向かって斜めに登り尾根にのった。

左に深く落ち込んだ藤切谷が見える。ひと休みして細尾根を登ると右に古いガレ場が現れた。回りだじが柱になっている。ガレの上に登ると西に展望が開けた。池水ノ頭からの接線が一気に落ち込んで大峠、その先に荒々しく大ガレの地肌を見せて屹立



するイハイガ岳、その右には縹向山、ゆっくりと高度を上げ乾いた草原から緑の笹原に変わりながら縹向山の山頂へと続いている。いろいろな角度から縹向山を眺めているがここからの眺望が一番だ。ひと休みして鞍部を辿り登りきると尾根が消える。平地の広場があり炭焼き窯の跡がある。入り口に3本の太杉が立っている。右側の谷からはせせらぎの音が聞こえてくる。1000mを超えこんな山奥にも炭焼き窯の跡があり、谷には水もある。昔はここをベースにして、雨乞岳あたりまでの樹林帯が炭焼きの対象になっていたようだ。

広場の奥に道が現れたが急斜面で消えた。大きく茂る樹林の中の道を辿ると樹林が切れ、その中の小さな広場に出た。右斜面は笹原が広がり、左は樹林の中に笹が続いていた。高さ約10mの笹の斜面を登りつめると流水と笹原に変わり、細尾根の西のピークに着いた。先峰からは北西に大きく展望が開けた。湖本平野とびわ湖が霞の中に広がっている。杉林ノ頭からダイジョウヘへと続く炭焼・ソブス・織子、その奥の織子谷口・御池岳・藤原岳が続いている。

眼下には深く落ち込んだ藤切谷が杉峠へ突き上げている。眺望をゆっくり楽しんだ後、後線のけもの道を辿る。雨乞岳山頂の樹林が見えてくると疎林の中の笹は背丈を超す密林を増してきた。後引に突き進むより方法を押し、強弱な笹藪をかき分けながら進むと前方の木に印が見えた。前回登った時、杉峠に下る登山道の横の木に付けておいた目印だ。目印に向かって後引に進むと登山道に出た。池の横を過ぎて雨乞岳山頂に着くといっぱいの人で賑わす場所もない。雨に続く笹原を少し歩くと右行があり、笹が切れて展望もグンと開け、最高の休憩場所だ。腹を下るして眺望を楽しみながらゆっくり昼食にする。

ここから見ると東雨乞岳も入ってはいっぱいだ。縹向山・縹向山・縹向山、そして南に続く主稜線、右には雨乞岳岳頂の先に縹向山も望めた。周りには誰もいない、豪華な詰めをひとり占めした。後引の杉林に回って藤切谷を下った。尚、今回の西尾根ルートでは冬枯れの時期には3本杉がよい目印となる。登りは間違いないが下山に利用する場合は、地形図をよく見て左に回り込みながらこの3本杉









稜線よりダイジョウを望む

で続いて見えた。次第に傾斜が緩くなりダイジョウ(1065m)に着いた。このルート、最後の登りの急斜面の岩場は、右に大きく回り込んで登ることができ、樹林に覆われ展望はないが落ち着いた素晴らしい山頂だ。腰を下ろしてゆっくりと昼食にする。この山頂から北の佐目小谷に下っている尾根がある。進む途中、何回も眺めながら来たが、全く人が入っていない

で、いつかぜひ歩いて見たいものだ。山頂から尾根が分かれていた。右(南)に続く尾根を進ると、落ち着いた深く積もった緩い下りになった。大きく茂る樹林の中には紐とテープの印が続いていた。下り終わると大きな窪地でスタマ場になっている。雨の時期には大きな池になるようだ。一つのコブがありそれを越えると又すぐコブが現れた。左はダイジョウから杉峠ノ頭へと続く自然杉の目立つ稜線、正面には雨乞岳から綿向山へと続く稜線が樹間から望めた。891mのピークに着いたが、樹林のせいで展望はあまり良くない。適当な木を探して登ると展望が一気に開けた。左下は北谷だ。全山紅葉した北谷の渓流は、自然杉の緑が点々と混じる豪華な彩りが眺望できた。そして正面は逆光の中に、雨乞岳から清水ノ頭・イハイガ岳・綿向山と続く青いスカイラインが素晴らしい。奥ノ畑谷の出会いから突き上げていく雨乞岳西尾根の炭焼き窯跡の日本杉も確認できた。このピークからの下りで尾根が二つに分かれた。紐の印は左に下っているが、右斜めに下ると、こちらにもテープの印が続いている。いったん下った鞍部でテープの印



▲コースタイム▼  
 工事用広場(1時間) 支尾根(30分) 稜線(20分) カクレグラ(1時間30分) ダイジョウ(20分) アケニダン(20分) 藤切谷味道(30分) 工事用広場  
 ▲地形図▼2万5千 日野東部・御在所山 昭文社「45御在所・鎌ヶ岳」  
 (岩野 明)

が消えた。これから先の尾根上はブッシュがかなり生え込んでいる。右折して急斜面をアケビダンへと下る。谷に下るとすぐ二俣の出会いに到着。前方左斜面に古い道が現れ、進ると藤切谷の林道に出た。尚、甲津畑には信長が泊まったと伝えられる陣屋跡の民家があり、馬をつないだという大松が地を這っている。よく手入れされていて多ことな松だ。一見の価値がある。(平成6年11月20日歩く)



尾根を登りつめると、明るい疎林の稜線に着いた。ひと休みして左にとりカクレグラへと向かう。稜線は赤い坂と踏み跡が続いている。右に影子ヶ口山系を望みながら緩い登りを進ると、やがて灌木の生え込みに変わり赤松が目立つようになった。倒れた大松を越えるとカクレグラはずり目の前だ。灌木の中を登りつめ、カクレグラの南端に着くと、後方に大きく展望が開けた。これから辿るダイジョウの奥に双耳峰の雨乞岳、右に清水ノ頭から綿向山へと続く稜線、左には影子ヶ口山系へと続く稜線、眼下は佐目小谷だ。眺望をゆっくり柔

しんでからカクレグラ山頂に向かう。二角点(990・11)から左に少し下って湖東平野の眺望を楽しんで引き返し、ダイジョウへと向かう。緩い下りと登りが続き、赤い杖も続いた。大きく茂る樹林は苦むして、その中に赤松の大木も混じっている。ガレ場の上からの眺望を楽しみながら進み、962mのピークに着く。台地状の広い山頂は樹林に覆われ展望はない。そして大きなスタマ場が現れた。周りの木の根元には泥を塗りつけた跡がかなりある。灌木の葉も泥まみれだ。鈴鹿を代表するような落ち着いた深い樹林がどこまでも続いている。次のピークも樹林に覆われて展望はない。左に回り込んで下ると左に大きなガレ場が現れ、ガレの上から思わぬ眺望が楽しめた。911mに向かって登りつめると、正面に深い樹林に覆われたダイジョウが望めた。さらに細い尾根の緩い登りを進ると、原生林を思わせる樹林帯が続き、ダイジョウが頭上に被さるようになってきて尾根が消えた。ダイジョウへの最後の登りだ。苦むした急な岩場を登り左から大岩の下を左に回り込むと、石橋花の群落に変わった。振り返ると樹間から歩いてきた稜線が断々とカクレグラま

**'95春夏ウェア大量入荷**

mont-bell DENLOP LOWA HANWAG  
 SOLOMITE SCARPA charlet CAMP

CAMP・HIKE・CLIMB  
**TOMY WALK**

ツイックロン・シャミー  
 ス・ジオライン等、新業  
 材フルラインナップ

営業時間 12:00~20:00  
 定休日 月・火曜  
 茨田市内本町1-23-7  
 TEL 06-319-0597



### 鈴鹿の秘境

## ダイジョウウ・イブネ・銚子・杉峠ノ頭

佐目小谷の源頭、イブネ・クラシ・銚子  
 として杉峠ノ頭からダイジョウウと続く山域  
 は、鈴鹿の秘境とも言える地帯でほとんど  
 知られていない。中心のイブネは2軒近い  
 笹原とカヤが海のように広がる広大な台地  
 で、登山道は杉峠から杉峠ノ頭の東麓を登  
 いてイブネに登り、銚子・銚子ヶ口へと続  
 くが、2軒近い笹原の敷こぎの連続でかな  
 りのアルバイトになる。

杉峠ノ頭からダイジョウウ・カクレグラと  
 続く鞍線は深い樹林に覆われてはいるが、  
 尾根を通ることが出来る。この広大な山域  
 は、鹿やカモシカの生息地で、登るたびに  
 出合っている。特に佐目峠の西の草原から  
 イブネそして銚子の草原へは、はっきりし  
 たけもの道が延びている。動物達も敷は賑  
 いなようで、通りやすいルートを選んでい  
 るようだ。このルートを利用すれば案外楽

に銚子まで行くことができる。自然に降り  
 込め、周りに樹液の気配を感じながらけ  
 もの道を通っていると、原産の頃の野生を  
 とり戻したような気持ちになり、体がぞく  
 ぞくする。

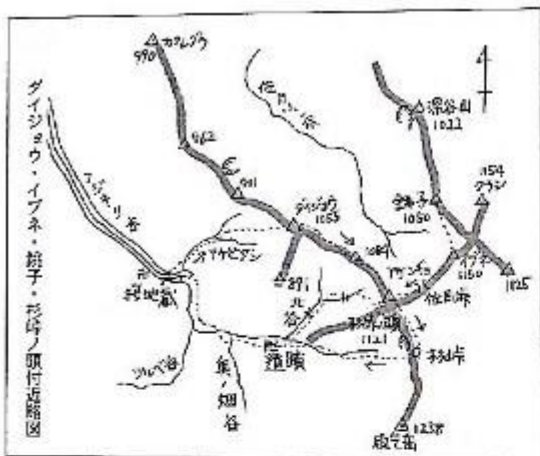
甲津畑から千草越えの森切谷林道をでき  
 るだけ奥まで車が入る。旧林道は道が狭い  
 ので要注意。普通車の場合、旧林道の途中  
 に工事用の広場があり、この広場に駐車で  
 きる。林道を進むと右に笹地蔵があり、緑  
 色の鉄橋を渡るとすぐに樹林の中の道は左  
 折して右に曲がるが、左側樹林の中に広場  
 がある。この広場の右隣に山に入る仙道が  
 ある。杉を植林した旧耕地が続き、それか  
 ら雑木の林に変わる。右に回り込み、谷を  
 渡って上流に進むと、谷が二股に分かれそ  
 の先は道が消えている。谷で水を確保して、  
 中央尾根をストリートに登るとダイジョウウ

イブネの下り道より銚子を望む



に行ける。大きく交る帯を巻いた樹林の中  
 の急な登りが続く。この尾根で鹿やカモシ  
 カによく出会う。岩が現れ、回り込んで登  
 りつめるとダイジョウウの山頂(1065m)  
 に着く。樹林に閉まれた静かな山頂だが展  
 望はない。樹間から銚子ヶ口からイブネに  
 続く鞍線が見え隠れする。

ひと休みして右に続くテープの印を追う  
 と緩い下りが続き尾根にのる。やせ尾根を



登りつめたピークからは後方にダイジョウウ  
 を望むことができる。そして前方には、こ  
 れから辿る自然杉の目立つ鞍線が望める。  
 いった心下って登り直しコブを三つ越える  
 と石櫛の群落する尾根に変わる。緩い下  
 りから登りに変わる尾根も広くなり、素  
 断らしい自然林の中に道が続く。辿るとフ  
 ナを主にした広い台地のマケギヨに着く。

深く積もった落ち葉の上を登れば、ゆっく  
 り昇緩でもしたい所だ。左手に樹林の間か  
 らイブネが見えてくる。道ははっきりしな  
 いがこの先で分かれている。直進すると杉  
 峠ノ頭に向かうが、左側めにとると緩い下  
 りに変わり前方が明るくなる。素断らし  
 い草原の広場へとび出す。鹿のたまり場い  
 になっているこの広場は、芝生のような短い  
 草に覆われていて、向に展望が開ける。  
 正面にイブネ、右に伊勢野野、そして  
 どっしりと木を造った巨大な笹原尾根。  
 東向を笹が眺望でき、テントでも張っ  
 てゆっくりと過ごしたい所だ。秋にな  
 ると、ここから佐目峠へと続く草原に  
 はリンドウの花がかなり咲いている。

鈴鹿でこれだけのリンドウが咲く場所  
 は他にないようだ。緩い下りのけもの  
 道を進むと、次第に雑木と笹が増えて  
 くる。行きつまった所に小さな広場と  
 岩があり佐目峠に着く。

周りが笹と雑木に覆われ展望はない。  
 峠から登山道への道は2軒近い笹に覆  
 われてほとんど消えてしまい、訪れる  
 人もいないようだ。高原の登り気が強  
 う素晴らしい時、そのうち深い笹の  
 中に埋もれてしまっておそれがある。こ

れを機会にぜひこの峠を訪れてもらいたい。  
 少し引き返して佐目小谷側の樹林の中を  
 イブネに向かうと、林床がやわらかい草に  
 覆われた佐目小谷の鞍部に着く。登山道は  
 深い笹の中、右に回り込んで登っているが、  
 樹林の中をストリートに登る。登りきった  
 所に草原があり右に展望が開ける。笹が疎  
 らに生えた樹林の中を進むと、右に開けた  
 笹原の中にもけもの道が続き、辿ると広大な  
 笹原が台地状に展開する。イブネの山頂だ。  
 その中に不明瞭な登山道がクラシへと続い  
 ている。引き返して樹林の中を進むと、左  
 に笹原の支尾根が現れ、その先に銚子の草  
 原が望める。さらに進むと左から切れ込ん  
 だ谷が入り、行き止まりになるが、谷の手  
 前でテープの印が銚子に向かって下ってい  
 る。印を追って下り、谷を渡って右に進む  
 と前方が開け、笹とカヤの草原に変わる。  
 けもの道が草原の中を銚子に向かって延び  
 ている。辿ると小さな流れを渡り背の低い  
 笹原の中から支尾根へと続く。右には谷が  
 続き、後方にはイブネの広大な笹原が展開  
 する。自然杉の尾根に変わる谷は左に回  
 り込んでくる。その向こう側に草原の台地  
 がある。谷に下って水を確保し、草原に入  
 りけもの道を進むと炭焼き窯の跡があり、



# 山の専門店マウンテントラベル

平成6年7月

## 大阪駅前第4ビルに 大阪支店オープン!

### 春・夏キャンペーン実施中

ホテルエベレストビューを利用したシャクナゲのトレッキングをはじめ、ネパールはこれから花のシーズンを迎えます。また台湾百名山・カナダ・アラスカなどスマートレッキングの申し込みを開始します。

#### 台湾百名山シリーズ

- ①小雪山天池と鞍馬山5日間 6月～9月.....155,000円より  
—龍谷天然遊楽区と雪山神木と天池—
- ②玉山国立公園と阿里山8日間 6月～9月.....166,000円より  
—新羅山と呼ばれた台湾最高峰と阿里山—

#### ネパール

- ①ホテルエベレストビュースペシャル8日間 6月.....268,000円より  
—黄色いシャクナゲと高山植物—
- ②ランタン・フラワートレッキング13日間 5月～7月.....398,000円より  
—花かざりの季節に“世界で最も美しい谷”をご覧ください—

#### アラスカ

- ①アラスカハイキングとアドベンチャー7日間・8日間 6月～9月...257,000円より  
—全米最大のチュガッチ州立公園で日帰りハイキングを楽しむ—
- ②デナリ国立公園ファミリーキャンプ7日間 6月～9月.....238,000円より  
—マッキンリー山を中心に広がる雄大な自然保護地域—

上記のほか、ヨーロッパ・カナダ・ブータン・パキスタン・ミャンマなど各種のパッケージを用意。皆様のオーダーメイドツアー・FT・個人旅行もお気軽にご相談下さい。

資料のご請求は  
☎0120-777802  
●全国どこからでも無料です

## マウンテントラベルツアーデスク

主催 ヒマラヤ観光開発株式会社 連絡大阪支店 一般旅行業1014号

東京/〒105 東京都港区新橋3-26-3 ☎03-3574-8880  
大阪/〒530 大阪市北区梅田1-11-4-500 ☎06-346-0360

草原に向かっても分ち登れば登山に替わって、谷の状況の広がりをもつ草原からは南に展望が開ける。クラシ・イブネ・雨乞岳へと続く横線を望み、特にイブネに突き上げていく谷に沿った自然杉の縁が何とも言えない美しさだ。北斜面はブナを主にした樹林で、谷の小谷に急角度で落ち込んでいる。この草原も水場が近いので、テントを張ってのんびり過ごしたい所である。

復路はアゲンキヨまで引き返し、横線を左にとり杉林ノ頭に向かう。テープの印を追って進み左に回り込むと杉林ノ頭に着くが頂上ははっきりしない。右に展望が開け、草原の先に雨乞岳の山頂が望める。右に折れこの草原を杉林に向か。ステレイトに下る道はないが印が続く。下り終わった道から少し登ると杉林に着く。特徴のある老杉の前でひと休みするのもよい。後は干草街道を下るだけである。

#### 最短コース 北谷から佐目峠

秘境のようなこの北谷は樹林が深く茂り、広くゆったりとした素晴らしい谷コースだ。谷に沿って古い道が続く。次々と成徳寺の跡が現れる。どの窯もしっかりと石垣を積んで作られている。源流の急斜面にも石

道を高く積み上げ、昔のような素晴らしい窯跡がある。登りきったアゲンキヨの南にもあった。昔はこの北谷から佐目峠へと続く道があったようだ。

干草越えの道を進ると左に古い武戸の跡があり連如上人の遺跡がある。さらに進むと左前方に大きな谷が現れ道が分かれる。右折すると杉林に向かうが、直進して谷を渡ると北谷に入る道がある。登りきった所に広場があり、炭焼き窯の跡がある。ここからアゲンキヨへと続く支尾根をストレートに登ることもできる。

谷に沿った道を進ると雲気漂う深い樹林の中、右に左に炭焼き窯の跡が続く。ゆったりと大きく育った樹林の中には落ち葉が深く積もっている。落ち葉を踏みしめながら進むと二俣に着く。右の谷の左岸に道が続き流が現れる。炭焼き窯の跡があり、ここで道は消えるが、左に回り込んで窯の上の杉面に登ると道が現れ、急斜面を斜めに登っていくと右に流が現れる。流を過ぎると道がはっきりしなくなるが、そのまま谷をつめると左斜面に石垣を高く積んだ炭焼き窯の跡が現れる。

谷は石を並べたようになり、勾配も急になってくる。谷の右側をつめると源流に赤

味を帯びた露が現れる。かなり急なこの露を登りつめると急に緩い斜面に変わり、自然杉と雑木の樹林に変わる。右斜め上に尾根が見える。この尾根に向かって登るとヌク場があり、炭焼き窯の跡があり、尾根に着く。尾根を左にとるとガレ場の上に出て展望が開ける。

雄大な雨乞岳を眺望しながらひと休みする。さらに緩い登りを進ると、ブナの大木がいくつも本現れ広い平坦な台地に変わる。左斜めに進むとテープの印がありアゲンキヨに着く。アゲンキヨから右に進むと佐目峠に着く。

#### ▲コースタイム▼

- 工事用広場(30分) 取り付き点(20分) 二俣(50分) ダイジョウ(1時間10分) アゲンキヨ(10分) 佐目峠(25分) イブネ(25分) 錦子(1時間) アゲンキヨ(20分) 杉ノ頭(15分) 杉林(3時間) 工事用広場 北谷ルート
  - 工事用広場(1時間10分) 北谷分岐(1時間10分) アゲンキヨ(10分) 佐目峠
- ▲地形図▼ 万5千1:1000 野東部・御在所山 昭文社「145御在所・錦ヶ岳」(岩野 明)







寺の上手に御厨子神社がある。細い山道を西南へ抜け、古池の東南角へ出て、南の五段に入ると、そこは整備された万葉の森である。



天香久山

天香久山へは万葉の森から直接にがれるが西面の集落へ渡り、天照大神が隠れた大石窟を神穀とする天香久山神社へ参拝する。

記載してある。天香久山社からいったん北へ下り八つ山で休息し、式内社に比定する筑紫坐摩土安神社へ立ち寄り、特別史跡の藤原京跡へ行くには小一時間はかかる。



藤原京跡

藤原京跡(藤原市高野町と周辺)の大河二山に開かれた藤原京は、持統天皇の八年(694)から文武天皇の和元(701)の間に築かれた。公使の調査報告書の岸俊明説による京域は、東西が中ツ道から下ツ道まで、南北は北辺の橋大踏から南辺の山田道まで3.1kmの8.5平方kmである。発掘調査には長期調査を要し、現状は京域の一部にも達していないが、大宮土壇という宮殿跡付近の中心部50ヘクタールを岡が買い上げ特別史跡に指定してある。

岩戸神社から西へ山裾の道を伝い、中ほどの登山道を上ると案に香久山に着く。見晴らしの良い天香久山の山頂には国宗立命神社の小さい社があるだけで、北側の登山道を下ると天香久山神社の境内に入る。極真命を祭っており、式内大社の天香山坐摩真命神社に比定されている。

【日本書紀】には神武天皇が天神のお告げに従い天香山の土をとり、平らなかわらけ八十枚とお酒を入れる瓶を作り、天神馬魂を祭祀して磐石の礎を平定したと

が記載されているが、礎石や規模の確認はまだほんの一部に過ぎない。大塚跡付近を散策し、松小小学校前の道を南へ約1km、飛鳥川の河原渡りを渡り西へ行くと、天香久山の真西にある園特別史跡の本薬師寺跡へ出る。金堂と東西両塔の礎石が残されている。現在の薬師寺東塔はここからの移築という説もある。

在地を神武陵として整備した。明治時代にも修築しているが現状は昭和15年の大拡張によるものである。

⑥ 敬勝山(山本・敬勝・大谷・大久保)

大和山中最高の1000m級の敬勝山へは東・西と南の三方から登れるが、神武陵から緩急を緩く北側山麓を回り、勾配の緩い迂回路の旧郷社敬勝山口神社から西登山道を上ると案である。

山口神社は攝原神宮遷葬に際し、山頂から大谷のお旅所へ移転されたが、近世には敬勝明神・お峰山と呼ばれ、息長足姫・豊受比売・表筒男命を祭祀していた。

明治になり、山頂の社は式内大社の敬勝山口坐摩神社、東山麓の熊野権現社は式内小社の東大谷日女命神社に比定された。現在の山口神社では大山祇神社を境内社

にしているが、実際には大谷家が社家で大谷に鎮座するので東大谷日女命神社とみる説もある。敬勝山山頂は北半分が見晴らしのきく平地で山口神社跡もある。式内の社は敬勝山山麓にあつて早い時期に荒廃したともいわれている。

⑦ 攝原神宮(敬勝・久米町)



東側への下りには勾配がきつく10分もあれば攝原神宮へ降りられる。明治21年に攝原宮に治定され、明治23年には造営が完成して官幣大

社になった。京都御所の賢所と神嘉殿を移築し本殿と拜殿にしている。宮殿建築の古式を踏襲している拜殿(現神楽殿)と、柳本藩織田家の書院家康を移築した文華殿は市文に指定されている。

攝原神宮は神武天皇と皇后五十鈴姫命を祭り、東京の明治神宮、京都の平安神宮、吉野の古野神宮同様新しい神社であるが、我が国創始の古きをなつかしみ、国の平和と繁栄を祈願する国民性に合うのか、初詣客も奈良県下では春日大社に次いで多く、年間の参拝者は300万を越えている。

今回の探索コースは近鉄攝原神宮前駅で解散するが、大和二三踏破希望の人は八木か耳成駅で下車すれば耳成山へも登れる。

関西 山越の古道(上)

新刊 中庄谷 直著 四六判・二〇〇〇円  
生駒越・葛城二八越・六甲・丹生越  
忘れ去られようとしている山越の古道を、石仏や道標や丁石をたどり、石畳を踏みしめる静かな山旅全30コース

京都丹波の山(上)

新刊 内田 嘉弘著 四六判・二〇〇〇円  
山陰道に沿って 国道9号線に沿って、山城、丹波境の大枝山から丹後、丹波境の大江山まで約70山初のガイド。下巻「丹波高原」来秋。

ナカニシヤ出版  
京都市左京区吉田二本松町2  
京都 075-751-1211 〒606



# 金剛山から大和・葛城山へ

松永恵一

## 夏草の匂い(1)

桜が散り卯月朔日(うづき)が来ると、花染衣(はなぞめ)は昨日のものとしてうすものに替替える。卯の花、橘の花が咲き、初夏の主役はほとこぎす。それもまた遠昔の山ほとこぎす。

さくらの色に、染めし衣を、ぬぎかへて山ほとこぎす。今日よりぞ待つ。

(後拾遺和歌集 二二五 夏 和原式部)  
春が来た時桜の色に染めて着た衣を、夏の衣に着替えて、夏を告げる山ほとこぎすの初音を聞く支度もとのった。さあ夏だ。若葉が萌葉色になり、次第に緑の濃さをましてゆく。やがて豊満な緑の衣をまとう。若草色、草色、若竹色、若竹色、柳葉色、常盤緑、松葉色、樹木はそれぞれの緑で装い、緑したたる世界をつくる。

夏草の匂いを嗅ぎながら山道をしばらく登ると、左手に杉木立が広がる。目をやると、ほろか下のほうで池の水面が光る。

夏草の匂う日なたから、少し離れた松の木陰に重い荷をおいて腰を下ろす。枯れた松葉や、かわいた草を敷くと、たいそう居心地がよい。野飯を出して時間と気温を書きつける。

箱をとおしてくる初夏の陽光がやわらかい。お茶をいれて餅を食べた後は、誰もいない林間で、贅沢な昼寝を楽しむ。ふと目をさますと、自分は十幾つかの少年になっていた。もちろんそれは瞬間のことです。すぐに現実の世界に戻るのだが、しばらくの間、忘れていた遠い日々のことを懐かしく思い出す。

## 文人墨客の足跡 近世

俳聖松尾芭蕉は、貞享四年(1687)10月に江戸を発った「笈の小文」の旅で、山麓に杖を曳いている。

### 葛城山

なほ見たし花に明け行く神の顔

芭蕉の「奥の細道」の旅に同行した菅長は、元禄四年(1691)に金剛山を訪れた。「近畿遊日記」には、「又雨、ナハヤノ城ヲ見テ金剛山峯ニ到、中ノ中刻木社本堂へ詣、西室坊ニ宿ス」とみえる。

儒学者貝原益軒は、元禄九年(1698)実に丹念に大和の地を巡り「和州巡覽記」を著し、「此の山に登れば、大和、河内、摂津、其他諸國眼下に見ゆ」と記した。西行を慕った仙臺の歌集「年並草」の享保八年(1722)5月には、

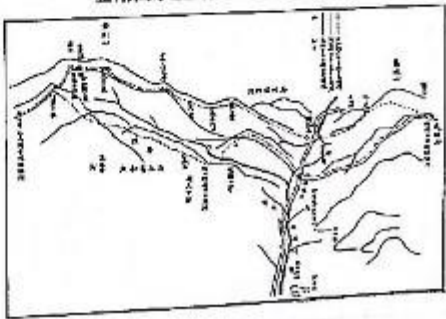
水無月三日千萬屋の古燈籠を二覧  
補正成の墓前に

ものぶの 名はくせしな 補の  
千はやのしるに 跡を残して  
の一言がある。

国学者本居宣長の「拾遺百首歌」に収められている至徳四年(1754)の作に、

葛城山  
春の日の 推行までは 緑ゆふの

金剛山水論関係図(『金剛山記』)



## 水越

古くから開発が進められてきた大和側では、水田の用水確保のため、金剛山頂付近の水源に注目し、治水灌漑工事が進められた。河内へ流下する河内側の水越川(東条川)の水を大和側の水越川の水越部分へ越口で流入させるように手を加え、さらに葛城山の南斜面を水越峠へ下す万治ヶ滝の水も水越峠を越えて大和側の水越川へ人工的に流入させ灌漑用水を確保した。

あそふも長き 葛城の山  
がある。

名作「雨月物語」の著者上田秋成は、大坂の人。天明八年(1788)大和に遊んだ折の紀行「若橋の記」がある。麓の長柄にいとこの木吉庄兵衛をたずねて、

若橋の 中や絶えんの ひと言は  
けふをかけしよ 葛城の條  
の一首を成した。

日向佐十郎の人野田成房は、諸國の名山霊蹟をたずねた。「日本九峰修行日記」の文化十五年(1818)5月24日の日記。時人。ナガラ宿より金剛山に登る。五十丁に本堂、法喜菩薩、南阿、雄失故今飯堂、奥の院宮一宇、寺中多し、大宿坊にて納経。願ナガラへ帰り、夫より八旗八幡へ詣つ。

幕末の志士で、国学者・歌人でもあった河内の國の人伴林虎平は、しばしば皇陵の調査や史跡めぐりを行い、紀行文「吉野の道の記」の五巻から金剛山に向かう記事に、「麓はしる夏の露に、」など打通して金剛山へと出で立つ。

と記し、また多くの和歌も残した。

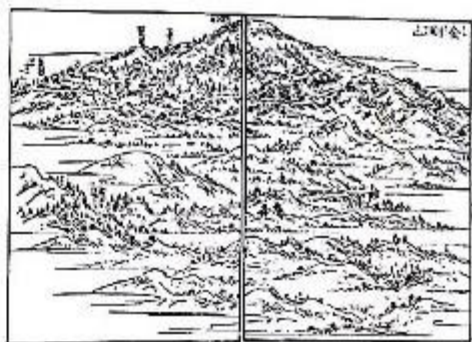
金剛山  
春来ても とけぬ谷の 霜柱  
なれも世に立つ かひやなからむ

新田開発が進んだ江戸時代になると、河内側は大和側による味越しの流水取得に異議を唱えるようになった。当時は金剛山から葛城山に至る國境も定かでないため、國境改めの検討がなされた。國境をはさんだ山麓の村々はそれぞれに有利な國境設定案を唱え、その調停は困難を窮めた。

元禄十四年(1701)、田植えを前にして河内側は深刻な水不足にあい、5月6日の朝、万治ヶ滝と越口の水を河内側へ切り落とし、8日には千八余りの河内側の農民が押しかけ、両方の切り口を確保した。大和側では、流血を避けるために法廷を持ち込むことを決め、訴状が提出された。この事件は京都所司代で裁かれることになった。

調停の場では、河内側は金剛山から葛城山へ至る自然境界を國境にすべきと主張し、大和側は水越峠を西へ越した鑛取石が古くからの國境であると主張した。12月21日に裁許が言い渡された。その決定は水越峠を國境としたが、金剛山頂から水源地一帯は大和側とした。掘行が承認され大和側の旧来の水利権が認められた。明治に入って同じ事態が再現されようとしたが、この時もそれまでの慣行が尊重されている。





金剛山（大和名所図会）

コース概観

今回のコースは、葛城修験道の拠点として開かれ、金剛山参りと称して多くの人々に登られてきた金剛生駒国定公園の最高峰（1125・3㍎）の金剛山から金剛葛城自然歩道（ダイヤモンド・トレール）で、金剛山の北尾根を縦走し、水越峠から「ひと巨万木」といわれるツツジの名所大和・葛城山（959・7㍎）に登る。

南海高野線・近鉄長野線の河内長野駅で下車。駅前から羽田バスに乗る。もしくは近鉄長野線の富田林駅で下車。駅前から金剛バスに乗る。金剛山ロープウェイ運行。終点で下車。百ヶ辻から左の林道に入る。棚尾谷のせせらぎの横に幅広い舗装された上り坂が続く。左右の植物に目を留めながら、静かな山歩きを楽しむ。坂道の勾配が一段ときつくなると念仏坂。伏見峠はもうそこ。舗装された林道は、まれに許可をうけた車が通るので注意してほしい。

伏見峠は府民の森三田地（附宮キャンプ場）。ピクニック広場・コグキャビン・千早赤阪村営の宿泊施設香栴・自然教室などが点在する。左手にロープウェイの山頂駅、展望台を見るとそこは奈良県。明治に至るまで論争を続けた水越峠水論により山頂部一帯は奈良県に所属している。

左に大きく曲がる所で右の小道に入る。歩きづらいうり坂。しばらく我慢して登ると無線中継所の横に湧出岳（1112・2㍎）の一等三角点を踏む。山頂の入り口脇に「妙法蓮華経如来神力方留第二十一」と刻まれた石碑がある。大峯七十五峰に相応する葛城二十八宿の修験道の行場、全国修験の根本道場であった。世阿弥作の謡曲

「葛城」の冒頭に、「神の吉の嶺とめて。神の吉の嶺とめて。葛城山に参らん」「これは出羽の羽黒山より出でたる山伏にて候。われこの度大峰葛城に参らばやと存じ候」とあり、はるばる羽黒山から葛城山に入参した山伏の物語である。

「高野寺縁起」は、役小角が南の友ヶ島から北東の伯耆までの葛城山中を、法華経二十八宿に擬定して二十八宿を構えたと記す。法華経は人間の罪業を消滅する呪力がこもった教典と信じられていた。整備された道を下る。一ノ鳥居は「法華経一字一石塔」と刻まれた石碑が立つ修験道跡の地。法華経を清浄に書写するには厳しい苦行が伴うので、これを行すると滅罪の功德が大きいと考えられていた。足元には「右エシのかうや 左 いせならはせ」の遺標がたまたむ。右折して水越峠へと向かう。

杉や檜の美しい樹林帯を行く。山頂部が豊かな森林であったことは、葛城神社の参道馬道に残る古木、樹齢五百年という仁王杉や大正十三年（1585）に大板城築城のさいに大榎木を伐採搬出したという伝承からもうかがえる。森林浴を楽しんで急な階段を下ると、真・正面に大和・葛城山山頂の草原が明るく輝いている。

平坦な道から急な下り坂になる。大和盆地の眺望を楽しみながら、ノンビリと歩を進める。

急な木の階段を下る。バナラマ台からは杉林の間を急降する。カヤンボの休憩所までひと息入れる。流れに沿って林道ガンドガコバ線を下る。水越峠の休憩所は半分埋もれている。フェンスをくぐり、横断する。

水越峠は、金剛山と大和・葛城山を振り分け、大和と河内を結ぶ峠。標高516㍎。古く水田の用水確保のため河内側の谷水を人工的に大和側へ流れ落とすので「みずこし」と名付けられた。水に対する人々の信仰は、古い時代にさかのぼる。峠を挟んだ大和側関屋の集落に葛城水分神社が、河内側水分に建水分神社がそれぞれ鎮座する。「延喜式」に記された古社で、その歴史を



- 物語っている。「入唐五家伝」の「高野親王入唐略記」によると、高野親王は貞観三年（861）にJ.R和歌山線の吉野口駅の近傍にあった巨勢寺から難波に出ているので、その行程から水越峠を越えたと考えられている。このように水越峠の交通路としての歴史は古く、確実な古代にまで遡る。
- 水越峠から少し登ったところから用水路の脇を通るようになる。この流れが大和側が人工的に確保した灌漑用水。よく整備された石畳の階段を登る。雑木林と笹の間を急な上り坂が続く。じんわりと汗がにじんでくる。汗を拭き、振り返ると金剛山が現野いっばいに飛び込んでくる。古代の人達に畏敬の念と神の存在を十分に抱かせる構図を有している。
- 明日香村が眼下に広がり、大和三山が浮
- 南海難波駅～河内長野駅 4500円
  - 河内長野駅～金剛ロープウェイ前 5200円
  - 葛城ロープウェイ前～御所駅 2400円
  - 近鉄御所駅～阿倍野駅 5400円
  - 《地形図》 2万5千：岩湧山・五峰・御所
  - 昭文社『5255 葛城高原・三上山』
  - 昭文社『53 金剛山・岩湧山』
  - 《問い合わせ先》
  - 南海旅客案内所 06(643) 1005
  - 葛城高原ロッジ 07456(2) 5083



2等三角点のある山

観音岳と白猪山

初級コース(★)  
山形 蔵之



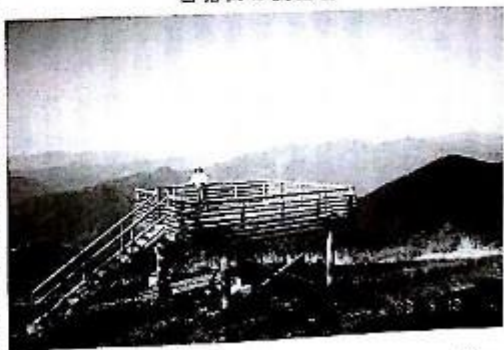
堀坂山から観音岳  
松阪の山では伊勢富士と言われる堀坂山が有名で、すでに本誌6号でも紹介されているが、観音岳はその北方にある。それほど高くもなく、とりたてて特徴もないが、堀坂山と登山口が同じなので、堀坂山(3等)を登った時にでも登るとよいだろう。  
近鉄松阪駅から「阿坂・小野」行きバスに乗り、横滝口

下車。そのまま西に向かって車道を進み、伊勢自動車道を渡って堀坂峠に登るのだが、車道を1時間30分ほど歩くことになる。マイカーなら伊勢自動車道の松阪インターでおりて、国道166号線に向かって南下し、伊勢寺町で峠への道にとりつける。森林公園キャンプ場を通ると、狭い一車線の所もあるが、舗装された良い道を峠に行く。堀坂山登山口の大きな看板が立っているが、駐車場は無いので近道で車を寄せる。

先ず堀坂山に登ろう。右の馬厩を滑って檜林の中によく踏まれた道が延びる。道は尾根上を一本道で登って行く。やがて木陰に人と同じくらい大きな金剛仏が現れる。傍らに役の行者らしい石仏もある。山で石仏はよく見かけるがこんな大きな金剛仏は珍しい。さらにひと登りで山頂下に出ると、ここにも同じような金剛仏が坐っていた。

頂上には石垣で囲まれた小さな社と、雨くらはい何とかなしのげそうなお石開きの小屋がふたつある。半分欠けた3等三角点標石(757・4m)があった。少し下のピークにはアンテナらしい高いポールが立っていた。展望は360度の広がり、北にはこれから登る観音岳を始め、南には白猪山が大きく横たわる。西に三角形の頂を持ち

白猪山の展望台



上げる岡ヶ岳、伊勢湾が霞んで見え、内宮方面には低い山々が重なっていた。  
堀坂峠に戻り、観音岳に向かって北に登る道に入る。こちらの方も草や木が刈り払われ、思ったより良い道で、ひと登りで鞍線に登り着く。道は檜林の中で薄暗く陰気な所が多い。小さい登り下りをもつばかりしてや々と観音岳の頂上に出ると、展望が開けた。5人も人が休めるくらい狭い山

頂には17号角もある大きな2等三角点標石(605・9m)が入っていた。(通常1等は18号角、2等は15号角、4等は12号角)そばに立つ同標石は、二等の二の字の一面が消えていて、一になっていて一等三角点と間違えう人がいるが、標石の側面に刻まれた等級を見れば2等だと確認できる。展望はあまり良くないが、伊勢湾方面や、合登って来た堀坂山が望まれる。道は北にも延びているが、車を駐めた堀坂峠に下山した。



白猪山  
松阪駅から「小原」行きバスで阪内まで下車し、すぐ左折して橋を渡る。2万5千区の中流である。車の場合にはやはり伊勢自動車道を松阪インターでおりて、南へ国道166号線に入る。国道をさらに南下し、辻原町で右折して橋を渡り、阪内川沿いに阪内町の中流に出る。ここで左

へ橋を渡って林道に入る。木嵐谷で又左折し橋を渡ると登りとなり、2つ目のヘアピンカーブの所の木に「白猪山登山口」の札がぶら下がっている。わずかに1と2の台の駐車が可能である。

小沢沿いに道を通り、沢を渡って檜林の中をいくと、「大杉」の表示がある。直径3センチくらいもありそうな大杉が一本立っている。ここで左へ小沢を渡る。道標があるので間違えることはないがさらに小沢沿いに登って行くと、やがて檜林の中の峠に登り着く。ここで左へ後縁を追ると、バツと視界が開けて一面ススキの原になる。この頂上には山三角点の石が入っているが、三角点ではないので間違わないこと。少し下に木製の展望台があって西面が広がり、局ヶ岳がいちだんと目をひく。三角点はそのま

まのまのままへ林の中を50分ばかり進み、本山の白猪山山頂(819・7m)となる。林の中で展望は無く、わずかに北の方に堀坂山が覗いていた。この標石も17号の大石であった。下山は同じ道を戻ったが、峠から南へ下ると道順や大石が下れる。どうやらこの道の方が正面道らしく、阪内コースは裏道のようなであった。

登山に必要なものは、  
国産・舶来  
すべて揃っています。  
足にピッタリ/  
登山靴のことならお任せ下さい  
(定休・火曜日)  
〒604 京都市中京区九太町通榎川東入  
☎ (075) 211-5768  
☎ (075) 231-0318

山とスキーの専門店  
**京都 ムラカミ**

△コースタイム▽  
堀坂山・観音岳  
堀坂峠(40分) 堀坂山(30分) 堀坂峠(40分) 観音岳(30分) 堀坂峠  
白猪山  
林道登山口(1時間) 白猪山(45分) 登山口  
△地形図▽2万5千1大河内  
20万1伊勢  
△交通▽三重交通松阪駅前所  
TEL 0598(5) 5240



特選コースガイド②

但馬

### 万場スキー場から

## 蘇武岳

中級コース(★★)  
須磨岡 輯

JR山陰本線江原駅前から、バスの人となり町中を抜け、しばらくすると車窓の向こうに円弧を描く但馬中央山地の山並みが現れ、これから登る山頂は……と目を凝らす。そうこうしているうちに山麓の万場バス停に到着する。

登山口の万場スキー場へは案内板に従い、万場集落を抜け、大木のそびえる天満宮横の駐車場へ着く。冬のゲレンデに思いを馳せながら身支度を済ませ、出発しよう。雪の無いゲレンデに延びる道を歩き始めると、まもなくの二又路は直進する。左は、万場川を渡る谷コースである。両側に畑の残る道を直進して行くとリフトチケット売場前。この小屋前から延びる第一リフト沿

いの初心者コースのゲレンデを登りきると、平地に建つ食堂前に着く。これから登るゲレンデは赤茶けた草地が広がり、その中に道が続いている。第二リフトは、食堂前からゲレンデの奥に消えていく。

小憩の後、高度を上げるにつれて神鍋高原の眺望が広がってくる。ゲレンデの中央に松の大木がそびえる第二リフトに着く。一服しよう。

今、登ってきたゲレンデの先には神鍋高原に建つカラフルな屋根が目につく。右前方にこれから登る支段根が延び、雑木林とゲレンデとの境の急坂に目標を定め歩きだす。

すぐ下の食堂前を抜け、支段根の裾にとりつく。足元は芽が芽が出て滑りやすく、その上、急坂の直登がしばらく続き、左手の第三リフトが視界から消えると8-11層の間に立つ。

しばらくここで息を整えよう。これから先は根幹のない落葉広葉樹林へ踏みこむ。足元にはイワカガミ、頭にカエデ、コナラ、ナナカマド等が目につき、秋は紅葉が楽しめるコースになる。緩やかな起伏の上下を繰り返しながら高度を稼ぐ。時々、踏

樂坂側の本当に必要なのかどうか疑問を感じながら林道を蘇武岳に向かう(現在一般車の通行は禁止)。5分程で主稜を横切り村岡町へ入る。



時に、樹々越しに開ける大パノラマを築し



む。足元近くに杉の集落、その先に荒野高原、滑川山、北ハチスキー場、鉢伏山。その奥に聖主水ノ山の眺望が大きく開ける。ほちほち林道歩きも飽きたころ、前方にいちだんと高い頂頂の山容が見えたら蘇武岳(1074.4m)である。林道を山頂直下まで進むと草地の頂上はすぐである。さすが一等三角点からの眺望だ。但馬の山々が指すで、時間を忘れさせてくれる程魅力のある山である。

毎年、5月に妙見山から三川山への但馬中央山地縦走大会が実施され、多数の参加者があると聞くと、冬は、水ノ山のファンコースと並び、山スキーのコースにもなる山域である。

眺望を楽しんだら踵を返し、今、登って来た草地を駆け下ると、すぐブナやミズナラの残る上層根へのコースに入る。時々、往路に歩いた林道が視線に見え隠れする。大きな起伏の少ない尾根歩きがしばらく続くので、植生を楽しみながら歩を進めていくと、主尾根から外れ右に下るコースにかかる。足元の悪い雑木帯の急坂がしばらく続き、斜度も緩く歩きやすくなると、各色から登って来た林道へ飛び出し、ここで始めて蘇武岳への道標を見る。

蘇武岳山頂



み跡が薄くなるので注意しよう。雑木帯が終われば杉の植林帯をしばらく進むと左手に万場川をつめる谷コースと出合う。すぐに巨高町発刊の案内地図にも載っていないピカピカの広葉雑木林道へ出る。東に鉢伏山、米日岳の山塊が見え、左には鷹神鍋スキー場のリフトが林道を突き進むように延びているのが間近に見える。このような主稜近くを走る山岳林道が林

一息入れる。林道を下り始めすぐの分岐を左へとり、少し登れば名色スキー場の最上部の節前山(797.8m)に着く。

このゲレンデは最大斜度40度もあるチャンピオンコース、スキーも手ごわいが歩くのも歩きづらい急坂だ。

後は、ゲレンデの中の歩きやすいコースを選びながら下り、スキー場入り口のロッヂ前を過ぎ、西側道を名色ロバステへ歩を急がせよう。

#### △コースタイム▽

- 万場スキー場(40分) 一本松(1時間25分)
- 広城基幹林道(1時間10分) 蘇武岳(1時間)
- 名色スキー場最上部(45分) 名色ロバステ

#### △地形図▽2万5千1:50000

- ①途中水場が無いので水筒満タンで出発する。
- ②登山は山菜が期待できる。
- ③マイカーの場合は奥神鍋・万場・名色の各スキー場の2つを組み合わせて計画するとよい。



日高の名峰

カムイエクウチカウシ山

上級コース(★★★★)  
桶葉 克己

「カムエク」の愛称で親しまれているカムイエクウチカウシ山は、日高第二の高峰である。新ハイ発行の「日本300名山ガイド」に補足しながら、八ノ沢からのコースを紹介したい。

カムエクに登るには、タクシーは頼れず、レンタカーを使わなければ大変不便だ。最寄りの空港は帯広であるが、1日4便あるうち、利用できそうなのは2便しかない。千歳空港を利用するほうが便利かもしれない。千歳空港を利用するときは、ベテガリ・神威村も計画のうちに加えられたらよいと思う。

平成6年7月現在、七ノ沢出合いは境内・中札内ルートの工事中で、ロ一日と様子が

変わるが、登山者に必要な表示はされているので心配はない。

七ノ沢出合いの少し手前にゲートがあるが、鍵はかかっている手で開けられる。ゲートをくぐると、ほんの僅かで登山者の駐車場に着く。

七ノ沢を渡ると本流に出る。いよいよ徒渉の開始だ。所どころに赤テープがつけられているが、場所によっては河原歩きをした方がよい所もある。徒渉地帯を選べば、深い所を徒渉する手間は少なくなる。

ガイドにあるように、水量の多いときは危険を伴うので、登山は中止した方がよい。徒渉は八ノ沢出合いまででなく、さらに、奥の三股まで続く。

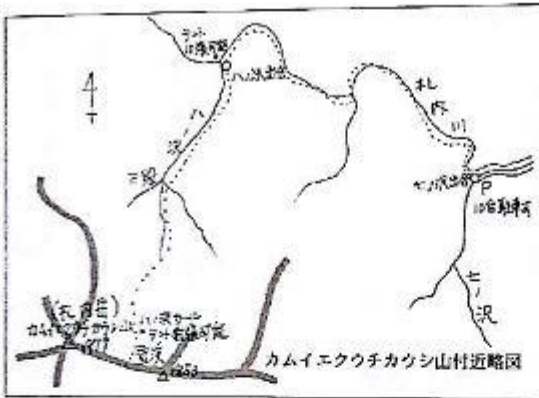
三股からは流の右側に高登きのルートがつけられていて迷うことはないが、三股から八ノ沢カールまでは、所どころ水が流れている岩場があって滑りやすい。個人の技量もあるだろうが、少々手間がかかっても、登山靴と溪流ばきを交互に使うと安心できる。

八ノ沢カールに着くと、はっきりとした道がついている。ほんの僅かでテント場に着く。

テント場を横切ると、雪渓の水の流れと、

ルから見上げる雪渓は、ガスのために皆目見当がつかない。地図が読めるだけではなく、山かんも必要だ。

雪渓を直進すると崖に突き当たるので、原則的には、慰霊碑のところから左45度くらいの見当で登って行くのがよさそうだ。私たちが登ったときには、途中で露岩があった。



そして、雪渓が一歩突き上げているところを目標として登ると稜線に出る。この稜線に出る手前の雪渓はかなりの勾配なので、アイゼンをつけても真力を強いられる。雪渓の両脇にある草付きの岩場を登ったほうが登りやすいかもしれない。稜線に出れば、1時間弱で頂上に立てる。

ガイドによれば、樹原岳をはじめとする日高の山々、大雪、東大雪、阿寒までも一歩できるがあるが、私たちが登ったときはガスがたちこめていて遠望がきかず、残念だった。

雪渓の下りは登りよりも緊張させられる。急車に下って、慰霊碑のところに着くと、ホッとす。頂上に立てたとき以上に、カムエクに登れたんだという実感がわく。

八ノ沢カールからの往復に時間がかかったり、疲れがひどいときには、もう一泊、八ノ沢出合いで泊まることをすすめたい。

八ノ沢出合いまでは、軍曹用具一式の歩荷をしなければならず、そして、技術を要するコースなので、人によって所要時間は大幅に違って来る。頑健脚の人ならば、七ノ沢出合いにテントを張って、軽装で登って戻ってくることも可能かもしれないが、一般的ではないのでおすすめてません。

カムイエクウチカウシ山山頂にて



昭和45年、ヒクマのために命を落とした福岡大生の慰霊碑がある。この碑のところから雪渓を登る。初めのうちはそれ程の傾斜ではないが、登るにつれて勾配がきつくなる。しかも、雪がしまっているし、凍っているところもあって、滑落の危険がある。アイゼンとストックまたはビッケルの携行は絶対不可欠だ。

さらに、天候が悪いときには、八ノ沢カール

問題のヒクマの件では、情報があまりないので、詳しいことはわからないが、私たちが登ったときは彼も見当たらず、クマの気配は感じられなかった。雪の多いときは比較的安心なのではないかと思われる。しかし、鉛などの準備は忘れないことだ。

いずれにしても、カムエクは超一級のコースで、西穂ノ奥穂の稜走とはまた一味が違ったむずかしさがあると同時に、登山のおもしろさが満喫できるコースでもある。

(平成6年7月15日、16日歩く)

- △コースタイム▽
- 七ノ沢出合(2時間30分) 八ノ沢出合(泊)
- ▽(2時間) 三股(1時間30分) 八ノ沢カール(1時間30分) 稜線(1時間) 頂上(2時間) 八ノ沢カール(3時間) 八ノ沢出合(2時間30分) 七ノ沢出合
- △地形図▽2万5千円川上流 20万川上流
- 5万川上流
- △費用▽
- レンタカー(1週間) 550000円
- ガソリン代 約100000円
- △問い合わせ先▽
- 中札内村振興 0155(67) 23111
- 中札内村振興 0156(69) 44200
- 帯広市林業 0156(69) 44200



### 新緑と花放浪の尾根道

## 伊吹・北尾根

中級コース(★★★)  
山崎 修

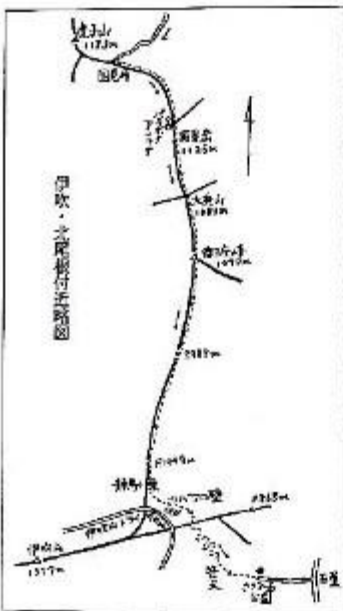
花の多いことで一部のの人に知られている伊吹北尾根を国見峠より歩き、静馬ヶ原から笹又のさざれ石公園に下る。ただ、国見峠と笹又は距離的に離れているので車2台以上で行き、1台を前もって下山予定地に置くか、それぞれ別に登り尾根上で出会った時に車を交換する方法がよい。

関ヶ原インターから国道22号線を大垣方面に向かい、関ヶ原東町の信号交差点を左折して、明神の森の標識に従ってカーブの多い狭い道を進ると明神の森に着く。休憩所やトイレもある。

若手峠を越えて春巨村に入り、古屋で左折するとさざれ石公園に着く。ここに下って来るので車を1台置く。無料駐車場であ

来ならずで花が落ちてはいるはずのサンカヨウやカタクリの花も所々に見られ、それらの花々を見ながら歩いて行くと大荒山山頂に着く。

馬廻は新緑が広がり、陽光に反射して目に眩しい。その中に紅味がかったカエデ類が点在していて、緑にアクセントをつけている。南にはひとまわ大きな伊吹山と、山肌に一筋の傷のように走るドライブウェイ



が見え、北には虚空山・長月山から金葉岳等が見渡せる。

大荒山からは緩やかな下りとなり、美濃側は一部ガレ地になっていて、そこからの展望が良く、歩くにつれて伊吹山が近づいて来る。

御座峠への登りでは斜面一面にイブキキンボウやイブキハタサオが咲き、黄と白に彩られた道の中、花を踏みぬよう注意しながら登ると三角山のある御座峠。山頂は木々が茂り見通しは良くない。

御座峠からは緩やかに下り、前方が開ける場所からはドライブウェイを通る車まで見え、左右の山肌を見ると深い新緑がまき

イレもある。もう1台の車で再び古屋に戻り長谷川沿いの山道を下る。道脇の所々にはさざれ石が置いてある。見た目にはコンクリートの塊のようにも見えるが、これは石灰岩が長年にわたり雨水で溶解して出来たもので、「岩が代」にも詠まれているさざれ石である。

川合に出て左折。国見岳スキー場を経て国見峠まで車が入る。途中、見上げると国見岳に立つ大きなバラボラアンテナが見え、道脇にはトチの原木が何本か目につく。峠までは、以前は荒れた林道であったが舗装され走りやすい道に変わっていた。

峠からは西に虚空山(フンゲン)が開通に見え、滋賀県伊吹町方面に林道が下っている。まずは国見岳を目指し伊吹北尾根に入る。手入れされた歩きやすい山道で、歩き始めてすぐに左手に遊歩道が見え、左側にアンテナに登る専用道が並行するのが見える。300mほどは高度差を約1時間弱で国見岳へ登り、途中の急登となる付近からはエンレイソウ・コンロンソウ・ヒメフクロ・ニリンソウ・ルイヨウボタン等の花が見られる。

山頂手前には、第二電電のリレーステーションの大きなバラボラアンテナが立っている。

御座峠付近から伊吹山北面を望む



アンテナを過ぎると、両側はニリンソウの群生、白い花が一面に咲いていて見事な眺め。花を見ながら登ると国見岳で東側のみ切り崩れており、春日村の川の流れに沿った山開きの集落が点々と見える。山頂からは新緑の梅林の中を通る。ラッシュモンカズラ・ヤマエンゴサク・イチリンソウ等が咲いていて、寒の戻りのためか本

タヤク等も見られた。

P983付近の西側に新しい巻き道が付けられており、その道ではハシリダコロが咲いていて、その近くにはツエウササシユスラの小さな群生があった。

静馬ヶ原への最後のピークである1149m付近に登り始めるとカタクリの群生が左右に見られ、可憐な花が周囲を明るくしている。そして、尾根道から少し離れた所にはキョウジャニンニクの群生があった。木々に覆われ入り口は分からなかったが、かなり下方面で生えているようだ。花は白っぽいラッシュキョウほどは美しくないが、それでもこれだけの花が一気に咲くと見事だろ。P1149付近から見ると眼前をドライブウェイが横切っていて、車の騒音も町中のように聞こえる。ここから下りきった所が静馬ヶ原で、ちょっととした草原になっている。以前に置かれた本によれば、静馬ヶ原はいろいろな花が咲いているお花畑であるとの説があるが、ドライブウェイからすぐ近くなのが見えなくて、今では花はあまり見られなかった。

ドライブウェイに登る尾根道と分かれ、ドライブウェイをトラバース気味に付けられている左手の道に入る。道はガレ地を



横切のように付けられており、今までの樹林帯とは違い高山の雰囲気。途中、ツバクコ壁と記した標識があり、ドライブウェイからのガレた壁をこう呼んでいいらしい。

トランプス道から再び樹林に入った右手にニリンソウの群落が見られ支尾板に出る。ここで道は左右に分岐。右に登ればドライブウェイに出るので左手を歩く。眼下には笹又の煙地が見える。

ブナやミズナラ等の雑木林の九十九折れの道を下る。ヤマブキノリがたくさん咲き、それがやがてシヤクの白い花と変わっていく。シヤクの花もたくさん咲いているととても奇麗である。

北尾根では登山者の姿が見られたが、トランプス道に入ってから人の気配のない自然の中を歩いている感じで、短い間ではあるが静かな樹林のコースだった。

樹林帯からシヤクとタンポポの草原に出て振り返ると山の色が淡く美しい。以前は煙地であったと思われる雑草が生い茂る所に出て、少し下ると現在も耕作されている畑に出る。

畑を耕していた人に話を聞くと、笹又の集落は、現在では住む人も居らず畑だけを耕しに来ているので、畑や畑が畑を荒らし

て因るとのことである。最近では、笹又から伊吹山に登る人はほとんど無いとも言っていた。しかし、登山ヶ原から笹又までの山道は一部草に被われているが、しっかりと歩いて間違え場所はない。

煙地を通りスギ林の中を下るとさざれ石公園に出る。さざれ石公園には売店と数個の大きなさざれ石が置かれ、その石の上に祠が祭られている。石炭岩に付いたクモノシダ・オウレンシダの観察によい所である。

伊吹北尾根は伊吹山と同じく石灰岩からなり、伊吹山の山頂のお花畑と同じ植物を見ることが出来る。特に伊吹山に近づくにつれほとんど同一の植生となる。

交通の便が悪く入山する人が少ないので、花期の好天時でもわずかに数人、ティという静かな山を羨しむことが出来る。花や樹木の観察にはとても良い所だ。人の少なさ故に花も多く残っているのかも。

気候が涼しいせいなのか、高木はなく落葉樹が多く、とりわけケエテ科が種類も多く、秋には素晴らしい紅葉が見られるだろう。その樹林下には珍しい白花（石灰岩特有の植物、日本産の植物）が入り混じり季節に応じて次々と咲き続ける。ぼつぼつと草

生しているものもあれば、ニリンソウ・ルイヨウボタン・フタバアオイ・カタクリ・コンロンソウ・トリカブト・シモツケソウ・キョウジャニンニク・イブキトウキのように大きな群落を作っているものもある。

伊吹北尾根の野鳥

この日に観察、鳴き声が聞かれた野鳥を同行の野鳥の会の人の記録より抜粋する。

- ウグイス・ヒヨドリ・カケス・コマドリ・コルリ・シジュウカラ・ヒガラ・ミソサザイ・オオトリ・センドイムシクイ・ハシホソガラス・アカゲラ・コゲラ・アオゲラ・ホオジロ・ノスリ・トビ・ヤマガラ・エナガ・ヤブサメ・キジバト・ツツドリ・キセキレイ・ツバメ・イワツバメ。

(平成5年5月16日歩)

▲コースタイム▼

- 園見峠(50分) 園見峠(40分) 大禿山(3時間) 健馬ヶ原(1時間) 笹又(25分) さざれ石公園

▲地形図▼2方5千1東東・関ヶ原  
▲問い合わせ▼  
春日村役場 05665(07) 2111

コブシと、タムシバと

山口 岩夫

林 翔



シバ 写すは描写である。シバ 根太はかりの林タに花を眺めたいよ うな花びらが風

みな指になり風つかむ花手夷 林 翔  
植物の名前の由来などというものは、いかげんなもので、このコブシもつぼみの形が握り拳に似ているから名づけられたなど、と多くの植物図鑑に書いてある。それならば、同じ仲間でも似たタムシバはどうしてつくられるんだと、いいたくなる。タムシバの葉は握り拳と甘みがあるから「味むぎ」がなまって「タムシバ」になったんだと、まことにやかは図鑑には書いてある。白頭の花は、鳥獣記の數十句あるコブシの句の中、私の好きな句でブある。握り拳の由来を踏まえた句として鑑賞すればなかなか見事な描写である。根太はかりの林タに花を眺めたいよ うな花びらが風

をつかむというところに生命力を感じ、歳時記には、コブシを詠んだ句は多いがタムシバの句は見当たらない。それは、タムシバが四喜四憂で語句が俳句になじまないことと、コブシとタムシバの区別がつかないために、なんでもコブシと思いついてからではないかと私は思う。本誌の山行記録を流んでも、コブシの花が咲いているというのが、しばしば出てくる。しかし、98%はタムシバだろうと言われるほど、関西地区、特に比良山系ではコブシの数は少ないのである。琵琶湖の北の三阿山にもタムシバが沢山ある。ある年の4月20日に、黒河林道から三阿山に登ったが、マルバマンサクとタムシバが同時に咲いていて見事だった。87も山の頂上付近にも手をとくとくこの山に咲いていた。「これ、みんなタムシバです」と同行の女性に尋ねたら、「まあ、タムシバだなんて、いやな名前」と嫌われた。彼女にとっては、やはりコブシのほうが良かったようだ。

先日ラジオのニュースによると、山口大学の宇都宮教授が、山口県の赤生遺跡から出土したコブシの種の発芽に成功し、1999年、十一年経った石炭に初めて花が咲いたということである。これは大賛成です。

コブシとタムシバの見分け方  
ともによく似たモクレン科の仲間である。葉によつては、二つとも落葉高木としているもの、小高木とするもの、コブシを高木としてタムシバを小高木とするものなど、いろいろであるが、一般的にコブシの方が小高木のようなものである。それもその土地によつて変わるから絶対的のものではない。私の家の庭にも植栽三十年ほどのコブシがあり、枝は切りつめてあるが幹の回りには三十五センチほどになっている。三阿山などでは土質のせいで大きくなれないからすべて低木である。葉よりも先に花をつけるので、見分け方のポイントになる。花弁はどちらとも六枚でよく似ているが、コブシは花の下に小さい葉が一枚ついている。しかしタムシバにはついていない。これが決め手になる。緑色がコブシで粉白色のほうはタムシバである。葉を噛んでみてピリリとするのがコブシで、タムシバにはほのかな甘みがある。こうして見てくると二つの花を混同することもないと思うのだが……。



連載

# 山岳夜話 (第9回)

## 小泉誓純

### 水上に咲いた徒花 (四)

「そりゃだったのかあ。……オレも、どっちかと言えば、兄貴のほうに近いなあ。だが、どっちにも順応できる。ただし、食事付きの寮はいやだなあ。まずくてどうにも食えなかった経験があるから。……まあ、性格と経験の両方の差だろう、キミや兄貴とは」

「O型は何事にも順応性があるのよ、A型と違って。だからバイタリティーのある人が多いの」

「ハハハ、少なくともそれは、オレの真の姿にはほど遠いなア。まあ、そんなことより、せめて腹と背中を間違ってお切りにならないでね、センセイ。ヘソのあるほうが腹ですぞ。アコにヘソがあるのは。よー

く、知ってるが、魚にヘソがあるかないか、オレ知らないけどね」

「ハハハ、人をバカにしてるね。……でも、魚がにらんでるみたい。……ごめんね。にらまないでよ」

彼女は、ぼくが言った。奥のほうの意味には気づかなかったようだ。

「あーあ、これはいつになったら食えるやら」

「ワフッ、あなたは實だから平気なのよ。わたしは卵(ワサギ)だもの。……虎が腹をつかまえたのよ」

「バカ言っただよ。まぬけな虎が兎につかまっただよ、ワフッ。まあ、任せるよ。オレは火付け役でもするか」

彼女は海辺に遠からぬ山手の育ちだからか、肉類よりも魚のほうが好きなようだ。そして若いわりには、日本酒の味もわかる

らしく、焼酎と同様に好きで、時々自分で買って自宅で飲むそう。

小型コップの骨髄を交代でまわし飲みながら、ぼくはたすねた。

「お味はどんなんですか？ 魚くさいと感じないか？」

「全然。すごくおいしい。家でも何かほかの魚でやってみようかな」

「ハハハ、それはやめたほうがいいと思うぞ。オレは耳たなどに鱗の頭をどんぶり茶わんに入れて——この場合は塩味がついてるわけだが——その上から魚カンをたっぷりと注いでグイグイッと飲むんだけど、『山賊寮して酒味となる』なんて言われて、野郎人扱いされるんだ。もともとは産物利用のつもりで実験してみたことに始まったんだけど、塩味のとれた二杯目から三杯目返りが一番うまい。でも、女の子がそれに類するようなことをしないほうがいいよ」

「マハハ、でもそんなオイシイ話を聞けば、余計にしくなっちゃうじゃない」

「言わなきゃよかったなあ、小泉流儀伝を。まあ、ぶくのひれ酒くらいにしておくんだな」

「それも飲んだことない」

「うん、九州産ちがてっちり——ぶくら

りのことだけど、食べたことないのか？」

「うん。父がお酒を飲まないからじゃなかな。それだけじゃなく、うちは何かにつけて質素だから、両親共をろって。だから、食生活も関西、とりわけ大阪とはずいぶん違うと思う。うちなんか、夕飯のメイン・ディッシュにマジの聞きが出てきたりするくらいなんだから」

「ふうーん？ ちょっと信じられないけど、今どきにしては……。しかし、子供二人を同時に、しかも東京に下宿させて私立の学校へ行かすのは、今も昔も、並のサラリーマン家庭にとっては大変な努力を要することなんだぞ。わかるか？」

「うん。わかっているつもりだけど」

「ならいいけど……。まあ、だからといって、親を養うしんどままでは言わないけどね。……まともな親というものは、子孫に孝行してもらおうなんていう根性でわが子を育てるんじゃないからね。……じゃあ、シーメンに入ったら、一度でっつりを食べに行こうか。それを肴にしてひれ酒を飲むんだ。冷凍物や発酵物なら年中あるんだけど、一度は本物を知っておかなきゃね。そのあと、は別しても」

明け方から時折雨が降るようになり、涼風も聞こえてくる。そしてやがて本降りとなった。

この山行で初めて、ツェルトの中でコンロを使ったの食事となる。フツ切りのママゴを入れた炭たしにつられて、ちよいと水利りの朝湯も——

予定を変更して往路の杉沢を引き返すことにする。支尾根に戻ると、風もかなりあることがわかった。その前から、彼女の両足は防水性が悪く、中まで濡れてしまっ。休憩はしたいが止まれば寒くなるという。主峰の嶺路に出で馬ノ鞍三角峰まで戻り、そこから西へ支尾根の踏み跡を少し下って、尾根が小広くなった平坦な所から、ちよっと登目しにくい、左(南)へ派生するそのまた支尾根へ、敢てこいで乗る。細い踏み跡を下るほどに不明瞭な所が増え、何度か彼女を止まらせてシートをさぐった。尾根の末梢に近づくとつれて傾斜はきつくなり、岩場も多くなる。

彼女が疲労に冷えも加わって難渋したので、風を避けるためにも、適当に見計って、下りやすそうな所から右の小さなイリハン谷へ下り、これを馬ノ鞍谷出合のままで下降する。出合の直前にかかる小滝

は、彼女の安全を図って左岸をアブザイルンした。

出合いに立つと、すぐ下流同意にカクン平谷との広い出合が見える。すでに増水と共に茶色く濁って木々を流しているこの広い出合を、足で底をさぐりながら右岸へ渡り、少し登って小道を八幡平へ向かう。雨の中とはいえ、スカッとした美濃の明神滝(500m)を振り返って眺めたように、彼女に勧めることは出来なかった。

すぐ白の下に深淵が見えたとき、だんまりがちだった彼女は、突然大きな声を出した。

「あー生きて帰れたあー」

「ハハハ、オーバーなこと言っただよ」

「ハハハ、オレは本当にそう思ったの……。こんな山行は初めてだから、あなたと遊んで……。その意味でだけでも、わたしはこの山行のことを一生恐れないと思う。……あなたと出合ってなければ、わたしは沢登りなんか一生しなかったらうし、もう今後することもないだろうし……」

八幡平に着き、供用用敷場の車庫に入って装備を解く。彼女は着替えることにした。

「キキアア……これナニイ？」



「ああ、ヒルだよ。晚じゃない、ハハハッ」

「イヤァッ……もお」  
「そんな大きな声出すなよ。人が来るぞ。おまけに、オレが単行の女の子にイタズラしたとでも勘違いされたら、要らぬ立回りになるぞ、フフッ。今日は大雨だから、みんな飯場の中にいる筈だから」

「地下に付いているヒルを元取ってやる。血を吸って太くなっている。」

「まだうしろにも一匹ほど付いてるねえ」

「エーッ？ はやく取ってえ。怖い！」

「ああ、これは杉の枯れ葉か、ハハハ」

「おおッ、冗談はやめてよお！」

「ハハハッ、もういないよ。安心しろ。ダニはいるかもしれないけど」

「エーッ？ まだほかのものいるのや？」

「かもしれない。小指の爪くらのヤツが肌にくっついてるかもね」

「いやだあ！ おお」

「彼女が泣きだしたような顔になった。」

「そんな情けない顔するな。少し痛いかかゆいところがあれば、着替えながら撫でてみるよ、怖くないから。付いていたら取ってやる」

「うん。じゃあ、しばらくあっち向いてて」

「うん。よく拭いてから着ろよ。せっかく着替えるんだから」

「飯場で電話を借りてタクシーを呼ぶ。やって来たのは、先口と同じ運転手だった。」

「対岸（左岸）の眼下に、今はじき西浦夫妻の空き家を見ながら、何度も立ち寄った。泊めてもって世話になったその人たちの人柄について、運転手とひとしきり話の花が咲く。」

「かつて、縁側に懸掛けて、この老夫妻と茶飲み話をしたとき、おばあさんは「まだ林道などなかった遠い昔に、風呂敷包みを背に負って、たった一人で嫁に来たときはあまりの山奥に、だまされたような気がしないでもなかった。でもなあ、今はこの人と一緒に生きてよかったと思う」とさわやかに笑った。その日焼けした顔を想い出しながえ、ほくほくはしほし、そしてひそかに、女の幸せというものに思いをはせた。」

「この山奥の、集落とも言いづらい地に電灯がともるようになってから、まだ10年くらいにしかならないように思われる。」

「そのころ、西浦老の機械が悪かったそう。」「街灯が明るすぎて眠れんがな」と、この西浦老もまた地元の人ではなく、青年

時代にどこからかやって来た、地元育りの柏木の古老は……。そして息子さんたちは立派に成長して、逆にみんなこの地を離れて行った。その一途の結果として、今は古びた家だけが流れのほとりに虚しく残っている。」

「愚案のように煙る山肌と三之公川の流れを、ゆるる車窓から眺めながら、生々流転流転生死なという文字がもの哀しく、深くの胸を去来する。」

「そして一方では、何も談しいことではない筈が、虚しくはあっても……それが人生というものなんだろう。オレたち二人のこともまた同じなんだ……と自分言ひ聞かせていた。」

「入之波の温泉宿に泊まるつもりだったが、あいにくどういいうわけか、その日は休業していた。すぐ近くの国民宿舎まで、彼女を乗せたまま待たせてあった車を再び走らせろ。」

「そこには温泉が引かれていない筈だ。今度は彼女が自主的に玄関へ行って行き、ぼくは車の中で待つ。彼女はしばらくして出て来ると、車に向かって直階（しじょう）印をつくった。」

「国民宿舎はひっそり閑としていた。ここ

力したつもりだったのに……さすがに眼力があるなあ——

「ともあれどんな風呂場かを見に行く。」

「けっこう広いじゃない。こうなったら、聞き直って一緒に入るか？」

「一緒に入るのはいけど、こんなに汚れた身体をゴソゴソ洗うところを見られるのはいやだあ」

「それもそうだなあ。オレも、派手に洗うところなんか、あまり見られたくないしね。いくら男でも、じゃあ、キミ先に入れ」

「あなた先に入って。女は長いから」

「そうか。じゃあ先に入ろぞ」

「ぼくは浴衣に着替えて部屋に戻ったが、彼女はそこまではしなかった。」

「畳の上で蓋し向かいで飲むのは初めてだなあ。お好み焼き屋では、ほかの人も近くにいたからね」

「うん。いい気分。ではお注ぎします、ウフッ」

「今日はかなり疲れただろう。雨に濡れたり泥んこになったり、虫にもモチたりして」

「彼女は急にしんみりとして、

「……うん……今日は早く眠りたい……いい」



「……うん……今日は早く眠りたい……いい」

「……うん……今日は早く眠りたい……いい」



# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電鉄 京電 京福  
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

**近鉄**  
▽東海自然歩「歩け歩け大会」  
ゆたかな自然の道・東青山回廊の  
さと滝見台コース 5月30日開  
集大坂線東青山駅前9時50分  
10時20分(コース)東青山駅  
(林道)一滝見台(せせらぎコー  
ス)切り通しコース(東青山駅  
(約11km)会費無料、参加自由、  
名古屋専車05993(54)70  
07  
▽スベシャルイベント・藤原京前  
第1300年記念「第6回奈良  
飛鳥歴史街道マラソンハイク」  
5月4日(開会)八咫宮トコ  
▽近鉄奈良駅東改札前9時30分  
9時のチャレンジコース近鉄大  
阪前9時10分②ファミリーコー  
ス近鉄奈良駅前10時11時(ヘ  
ス)③奈良駅北・山の辺の道  
石上神宮一山の辺の道(佐野市内  
福原市見立館)ロマンチック藤原  
京55公頃(約42km)④大堰駅石  
上神宮一山下(約10km)⑤約24km  
⑥登井駅一福原市見立館(約8km)  
トピア藤原京55公頃(約8km)  
\*会費・申込方法など詳しくは内容  
は4月上旬に発表しますので左記  
へお問い合わせ下さい。上本町事  
業06(775)35666

▽近鉄登山「大杉谷乗鞍登山」  
5月16日(日)15(開会)吉野線大和  
上市駅前9時30分(コース)第1  
日目(大和上市駅)大台駐車場  
(東コース回遊)一山の家の夜に  
山登りの講習会(乗鞍谷)第2  
日目(山の家の夜)日出ヶ岳(大杉  
谷)一山の家の家(開会)3日目  
一山の家の家(大杉谷)1  
第3乗鞍谷(大杉)松原駅(約23  
km)開会)会費21000円(定  
員)別名市話申し込み制、参加資格  
中学生以上60才までの健康な方、  
講師奈良山岳会、天王寺事業0  
6(624)038222  
▽万歩ハイキング・藤原京前  
300年記念「大和山をめぐる」  
5月14日(開会)南大坂線福原特  
宮副駅中央改札前9時30分(ヘ  
ス)①福原市見立館一蹴勢山一蹴勢  
御陵前駅一本善師寺跡一香久山一  
藤原宮跡・ロマンチック藤原京  
金堀見学(現地解散)一耳成家  
(バス利用の場合は八木駅)(約  
14km)耳成山登山は自由行動とな  
ります。会費無料、参加自由、上  
本町事業06(775)35666  
天王寺事業06(624)038  
222

▽観光ファミリーハイキング・て  
くくまっふ歩めたらいい渋谷コー  
ス「天川川合から清川温泉へ」  
5月20日(開会)吉野線下市口駅前  
9時10分(コース)下市口駅  
川川合(みたじい)の滝(光の滝)一  
清川温泉(入浴可)一下市口駅  
(約8km)会費無料(バス代大人  
2400円)小学生1200円入浴料  
は別途)定員200名電話申し込み  
制、天王寺事業06(624)  
038222

▽朝日自然教室「和佐又山・山野  
草賞味」5月21日(開会)吉野線  
大和上市駅前9時50分(コース)  
大和上市駅前(和佐又山)山野草  
賞味(和佐又山)ヒュッテ(和佐又  
山)大和上市駅(約5km)会費9  
000円(バス代大人3880円小  
人890円)は別途)定員200名  
電車申し込み制、講師和佐又山ス  
キー場々長谷本(野次、大寺等事  
業06(624)038222

▽ほのほのツアー「大台ヶ原山ま  
つり参加」しゃくくなげの大台ヶ原  
日帰り之旅」5月21日(開会)あ  
べの橋駅東口テレメイトセンター  
7時30分(コース)あべの橋駅  
大和上市駅前(大台駐車場)日出  
ヶ岳(正木ヶ原)生石ヶ原(大蛇  
崎)シオカラ谷(大台駐車場)大

和上市駅前あべの橋駅(約9km)  
会費大人5840円小人3160  
円定員150名電話申し込み制、  
あべの橋駅東口テレメイトセンター  
06(624)00226  
\*同じ企画を5月28日(日)にも行い  
ます。  
▽観光ファミリーハイキング・歴  
史街道をたずねて「大化改新13  
50年記念ハイキング」5月28  
日(開会)大坂線北改札前10  
時(コース)櫻井駅(多武峰)一該  
山神社(北山)メスリ山古墳(一  
井)約14km)参加者全員に記念  
品オリジナルTシャツ進呈、会費  
無料(バス代は別途)、参加自由、  
上本町事業06(775)35666  
▽花大和フニスタの歴史街道花  
の道をたずねるウイークデーハイ  
ク「誕生寺から滝谷花しよる会」  
6月15日(開会)大坂線生口大野  
駅前10時20分(コース)誕生寺口大  
野駅(赤松園)一誕生寺(一弘法  
大師ゆかりの道)滝谷花しよる会  
開(二本松駅(約11km)会費無料、  
参加自由、上本町事業06(77  
5)35666

▽近鉄ファミリーハイキング・フ  
ンコール企画「花菖蒲の園を訪ね  
て」誕生寺・滝谷コース」6月  
16日(開会)大坂線生口大野駅前  
11時20分(コース)誕生寺口大野  
駅(誕生寺)バス停(誕生寺)三輪  
神社(滝谷花しよる会)二本松  
駅(約11km)会費無料、参加自由、  
名古屋専車05993(54)70  
07  
▽万歩ハイキング・新緑の吉野山  
キャンベーン・てくくまっふの  
吉野・宮田万葉コース「宮田から  
吉野山へ」6月25日(開会)吉野  
線大和上市駅前10時(コース)大  
和上市駅(宮田)一藤原谷(一推見  
松原)一如意輪寺(一藤原谷)吉野  
駅(約8km)会費無料(バス代大  
人3200円小人1600円)は別途)  
参加自由、天王寺事業06(62  
4)038222

▽ほのほのツアー「あじさいの吉  
野山日帰り散策」6月25日(開会)  
あべの橋駅東口テレメイトセン  
ター9時10分(コース)あべの橋  
駅(吉野駅)七曲(一藤原寺)吉  
永神社(西澤屋)一如意輪  
寺(一温泉谷)吉野駅(あべの橋)  
会費大人3770円小人2740  
円(送料別)定員100名電話  
申し込み制、あべの橋駅東口テレ  
メイトセンター06(624)0  
0226

**阪急**  
▽明治の森・箕面公園公園クリ  
ンハイキング「箕面アケ原林道・  
箕面滝コース」5月3日(開会)合  
津安寺境内(阪急箕面駅徒歩10  
分)3時30分(開会)大正(コース)  
3)5500円  
▽阪急ハイキング「箕野北山・貴  
船神社から二の瀬ユリコース」  
5月21日(開会)東船場駅西口10  
時30分(開会)西船場、京阪東  
船場のりかえ出町橋から阪急  
西行まで(箕面)雨天中止(コー  
ス)貴船口駅(一貴船神社)  
貴船神社(滝谷)滝谷(一一の瀬  
ユリ)貴船神社(一の瀬)約15  
km)中級回(阪急山の係)06(62  
4)038222  
\*阪急ハイキングの当日の中止・  
決行の問い合わせは梅田駅06  
(624)56566(朝7時以降)

**京阪**  
▽京阪自然歩道リレーハイキング  
「大原・比叡山コース」5月28日  
開会(大原)6月4日(開会)比叡山  
山王院(開会)9時10分(コー  
ス)大原バス停(三軒)一三軒  
口(一山王院)一三軒(一三軒)一  
三軒(一山王院)ケーブル比叡  
(約12.5km)散策運動部連動隊  
075(76)51001

**神戸電鉄**  
▽新緑の中の森林浴「庚ヶ谷と翠



















青森市古物店展

コース 青森駅前(バス) 青森町... 費用 保険料(協同交通費を含む)...

種丹園境を歩く

白山・妙見山 (一般向き) 期日 6月11日(日) 日曜日... 費用 約3800円(入込から)

山行報告

新ハイキングクラブ

保津峠から嵐山(新年会同行) 1月6日(日) 晴れ JR京浜線...

(参加者) 黒井昌子 田中喜美江 近藤次郎...

ソング園西まで

広い岩場からの眺望は600度... 期日 6月10日(日) 日曜日... 費用 500円(保険料)...

ササ原の滝をめぐりながら下山する

ササ原の滝をめぐりながら下山する... 期日 6月12日(日) 晴れ...

中西行

天ヶ森(木喰ハイク6) 1月12日(日) 晴れ 北大路駅8・50集合...

大又から明神平 1月15日(日) 曇り時々雪...

京釜北山歩き36

ジョーラックから種丹園境まで (一般向き) 期日 6月25日(日) 日曜日...

多人数の団体登山になり

多人数の団体登山になり... 定例制の例会は、先着順に受け付けています。

あなただけのもの

国際ボランティア... ボランティア隊員募集... 期日 7月21日(土) 8月13日...

雨から中雨

雨から中雨... 45〜50mm 明屋ヶ岳東麓11・05〜10...

文学部卒業生22

元山山口から高安の里へ 1月25日(日) リーダーの都合で中止しました。

大文字山から三井寺 (木喰ハイク6) 2月9日(日) 曇りのち晴れ...



16・30(解散)

和やかな天候に恵まれ、十分に山歩きを楽しみ、親交を深めた。大文字火床は、大の字の、右は左の、最下部から登った。

- (参加者) 今井浩 伊藤あはる 西沢広二 高坂俊彦 阪口千鶴子 土肥三枝 井上正樹 結城ロレンス 三浦弘幸 新田孝子 藤野孝子 堀井利子 杉原正一 西本政一 南 寛子 西津基子 青木一雄 林 暢子 岡 潤美 宮田三喜彦 北山敬美 明神成行 明神博子 小西敬雄 中村英彦 中村真孝子 岩波栄子 菊田政隆 大貫祥枝子 吉野 誠 日高賢輔 田中まゆ子 新渡裕子 中村和子 鈴木英男

大 髙野山からの展望は360度、白い頂きの北山の峰々が指折りで、髙野山から雲仙山へは、トレーヌがなくて良かった。

- (参加者) 今井浩 藤野孝子 近藤 恭 水野順江 藤野明美 湯浅次男 神 伸 中尾 勉 上野博子 竹野美彦 小林 桂 藤野元博 三宅 明 藤田幸史 鈴木由子 宮原敬彦 長比裕美 藤田克子 宮田孝英 奥村浩治 和田山樹 住山隆一 中川史 山科邦彦 中村孝 小田原史 阿部邦彦 平 幸子 中村和子 村井一巳 藤原英明 藤野孝子 今西芳男 岡田 昇 岡三寛孝子 制定家夫 永田博美 藤井 寛 前田敬雄 上波雄枝 堀井義子 堀井 徹 堀 公子 田中善美江 中島寿海 上原 潤 上井直孝子 中野和子 美野 潤 吉田敦一 池 信雄

2月11日 晴れ

京阪出町駅駅前バス乗り場は8・30(集合)40発(バス)平バス停8・20(45分)ラキオ10・40(50分)赤見山11・30(集合)12・40(50分)仙山13・45(50分)妙道谷バス停15・00(55分)バス)丁度御通駅15・15(解散)16・20発(電車)京都・大坂へ

風のない暖かな日に恵まれて、快晴に歩いた。予定より早く谷谷バス停に着いたので、解散後はとんどの人が探検味・上のコースと武十自然歩道コースの二組に分かれ、それぞれ約1時間足を通行、十個所あるを完結した。

- (参加者) 野口 隆 山崎多恵子 新田孝子 横田信雄 渡辺野恵子 芝野泰明 池田俊治 林 義雄子 中尾 順一 明神成行 明神博子 加藤英彦 下西 和 野口志穂子 藤野美雄 寺本善男 山本洋博子 辻村洋夫 血原善男 辻 潤一 永井哲一 酒田 昇 岡田直孝子 若木隆二 布部英英 藤野マユ子 藤尾正三 妹尾公代 渡井千恵子 若木隆彦 生田 潤 吉田その子 藤田孝子 青木一雄 井上直孝子 藤岡克子 青木一雄 井上直孝子 堀 公子 永田博美 大谷敬雄子 水原昭子 上田美子 上井直孝子 今西芳男 長比裕美 光川二葉子 島川明代 藤原明美 中階代子 真藤洋行

明神山(霜降後) 2月26日 曇りのち晴れ 髙野山4・40(集合) 神元山10・20(吉田山)10・30(髙野山)15・15(明神山)11・45(集合)12・40(明神山)14・25(神元山)14・35(集合)17・30(解散)

- (参加者) 野野重彦 野名田紀江 吉田 進 三村徳志 藤野孝子 藤村敬隆

登山道がよく整備されていて、とても歩きやすかった。岩の多い山頂は広く、風情を申し分なかった。行者山の岩場では着巻りの訓練をしている者が多かった。

- (参加者) 福本英彦 野口 隆 加藤元彦 新田孝子 伊藤あはる 星野正敏 下野智子 安田文美江 木島博子 藤 結城 家人英夫 家人親孝 多賀公子 藤野雄三 藤原祥男 小島明枝 岡崎なか乃 古川高子 吉田時子 市川昭子 濱田敬雄 高橋 直 中井ひろみ 永田博美 日高賢輔 中階代子 妹尾正三 高野孝治 下村隆三 真井 正

ていた。髙野山から髙野山や、吉野の山の山頂同定を、覚えたてのコンパスを使って楽しんだ。

- (参加者) 堀本 時 藤本隆二 市橋浩美 加藤元彦 阪口千鶴子 小西敬雄 土肥三枝 高月マユ子 上波雄枝 落合 博 伊藤千代子 川口裕雄 村上春代 小森はなえ 湯浅次男 高田 直 吉田文子 中村和子 北川徳子 藤野マユ子 前田孝子 前田敬雄 上野千枝子 元吉 幸 藤野祥子 田中三恵子

新ハイキングクラブ開会 入金のすまぬ このスーンの山行例会を通じて、正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー(総)はすべて無償の奉仕で、各自で活動費を割り振ります。総務料もすべてワリカンです。

- 新ハイキングクラブ開会 入金のすまぬ このスーンの山行例会を通じて、正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー(総)はすべて無償の奉仕で、各自で活動費を割り振ります。総務料もすべてワリカンです。

新ハイキングクラブ開会では、会員の増加に伴って、山行例会を増やす必要があり、リーダーは、かま月一回程度の山行計画を立案し、実施して頂きます。

- 新ハイキングクラブ開会では、会員の増加に伴って、山行例会を増やす必要があり、リーダーは、かま月一回程度の山行計画を立案し、実施して頂きます。